

平成 29 (2017) 年度 学習院大学 卒業生調査

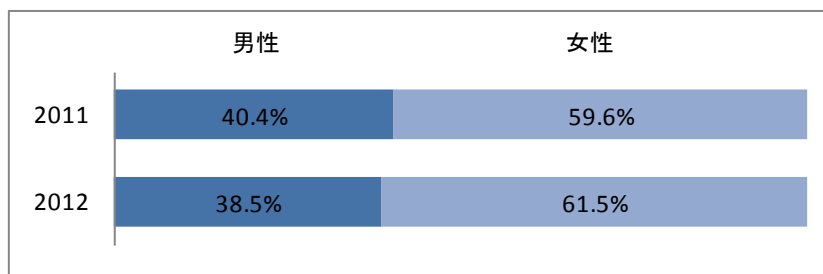
第 1 章 基本集計結果

調査概要

調査目的	本学卒業生の大学在学中の学習や諸経験が卒業後のキャリアや生活とどのような関係にあるのかを検証すること。
調査対象	平成 29 年度実施：平成 23 年度卒の学部卒業生（2012 年 3 月卒業、「2012」群と表記） ※本報告書では、あわせて前回平成 28 年度実施のうち平成 22 年度卒回答を集計・分析する。 平成 28 年度実施：平成 22 年度卒の学部卒業生（2011 年 3 月卒業、「2011」群と表記）
調査時期	平成 29 年 10 月 28 日～平成 30 年 2 月 5 日
調査方法	郵送にて依頼状を送付し、郵送にて返送あるいは Web 上のアンケートフォームにて回答
調査項目	Q 1…フェイスシート 性別、年齢、学科、入試方式、配偶者、子ども、現住所 Q 2…高校の学習習慣 Q 3…高校までの留学経験 Q 4…高校の成績（相対的かつ主観的な成績。上位・下位など） Q 5…学習院入学の決定経緯 Q 6…大学時代の講義・演習への取り組み Q 7…大学時代楽しみだった授業 Q 8…大学時代の学習時間（1 週間あたり） Q 9…大学時代の学び方 Q 10…大学時代の成績（相対的かつ主観的な成績。上位・下位など） Q 11…大学時代の課外活動への取り組み Q 12…大学時代の留学経験 Q 13…卒論・卒研の経験有無 Q 14…卒論・卒研執筆時に意識したこと Q 15…卒論・卒研の意義 Q 16…大学時代に身につけた知識や能力（前回実施概要報告書の「社会人総合力」） Q 17…大学時代の教育と生活の満足度 Q 18…卒業した直後の進路 Q 19…現況 Q 20…海外での勤務経験 Q 21…卒業後のライフイベント（就職、転職、結婚、出産、退職） Q 22…キャリアのための学習（前回実施の本調査ではこれを「生涯学習」としている） Q 23…仕事に役だった大学での学び Q 24…大学でもっと学んでおけばよかったこと Q 25…現在の仕事への満足度 Q 26…現在身につけている知識・能力 (Q 16 と同様の項目で多少の文言が調整されている)

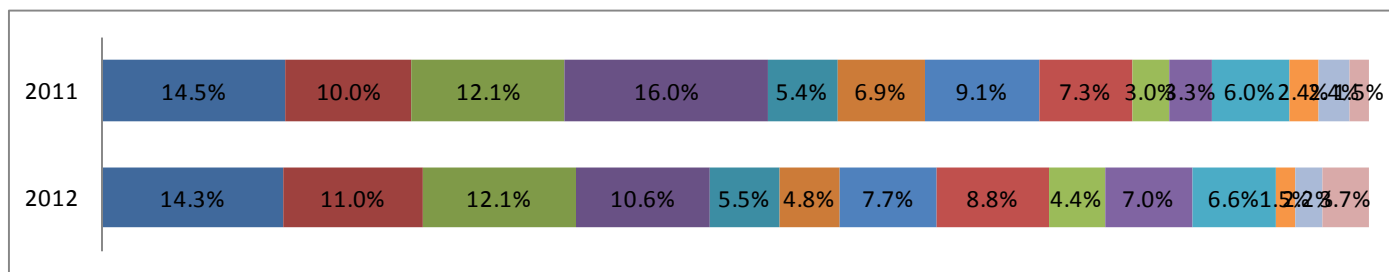
Q01 回答者属性

回答者の性別と年齢



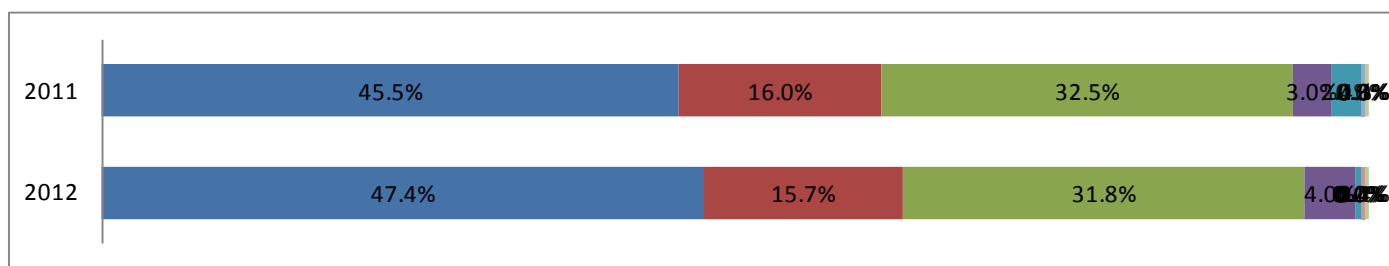
	男性	女性	平均年齢	最小年齢	最大年齢
2011	134	198	27.4	26	55
2012	106	169	27.5	26	35

学科別回答人数



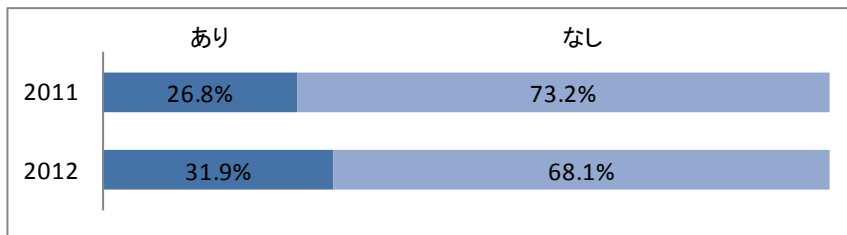
	1. 法学科	2. 政治学科	3. 経済学科	4. 経営学科	5. 哲学科	6. 史学科	7. 日本語日本文学科	8. 英語英米文化学科	9. ドイツ語圏文化学科	10. フランス語圏文化学科	11. 心理学科	12. 物理学科	13. 化学科	14. 数学科
2011	48 14.5%	33 10.0%	40 12.1%	53 16.0%	18 5.4%	23 6.9%	30 9.1%	24 7.3%	10 3.0%	11 3.3%	20 6.0%	8 2.4%	8 2.4%	5 1.5%
2012	39 14.3%	30 11.0%	33 12.1%	29 10.6%	15 5.5%	13 4.8%	21 7.7%	24 8.8%	12 4.4%	19 7.0%	18 6.6%	4 1.5%	6 2.2%	10 3.7%

入学にあたっての入試方式

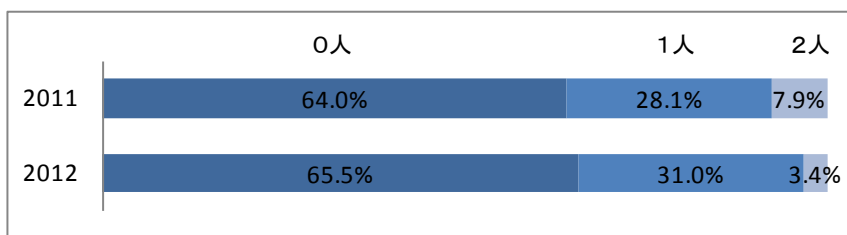


	1. 一般入試	2. 男女高等科からの進学	3. 指定校推薦入試	4. 公募制推薦入試	5. 海外帰国生入試	6. 外国人学生特別入試	7. 社会人入試	8. 編入学試験	9. 転部・転科
2011	151 45.5%	53 16.0%	108 32.5%	10 3.0%	8 2.4%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%
2012	130 47.4%	43 15.7%	87 31.8%	11 4.0%	1 0.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%

配偶者の有無



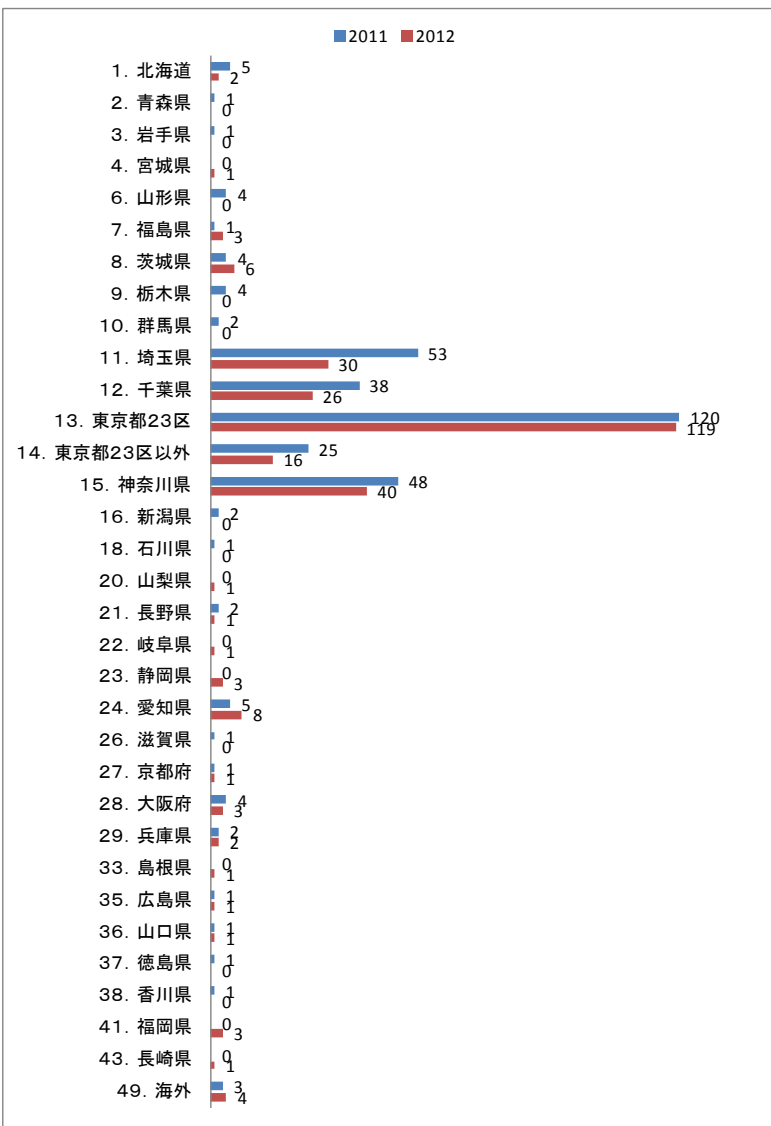
子供の人数



※ 配偶者ありの人数を100%として計算。

現在のお住まい

	2011	2012
1. 北海道	5	2
2. 青森県	1	0
3. 岩手県	1	0
4. 宮城県	0	1
6. 山形県	4	0
7. 福島県	1	3
8. 茨城県	4	6
9. 栃木県	4	0
10. 群馬県	2	0
11. 埼玉県	53	30
12. 千葉県	38	26
13. 東京都23区	120	119
14. 東京都23区以外	25	16
15. 神奈川県	48	40
16. 新潟県	2	0
18. 石川県	1	0
20. 山梨県	0	1
21. 長野県	2	1
22. 岐阜県	0	1
23. 静岡県	0	3
24. 愛知県	5	8
26. 滋賀県	1	0
27. 京都府	1	1
28. 大阪府	4	3
29. 兵庫県	2	2
33. 島根県	0	1
35. 広島県	1	1
36. 山口県	1	1
37. 徳島県	1	0
38. 香川県	1	0
41. 福岡県	0	3
43. 長崎県	0	1
49. 海外	3	4

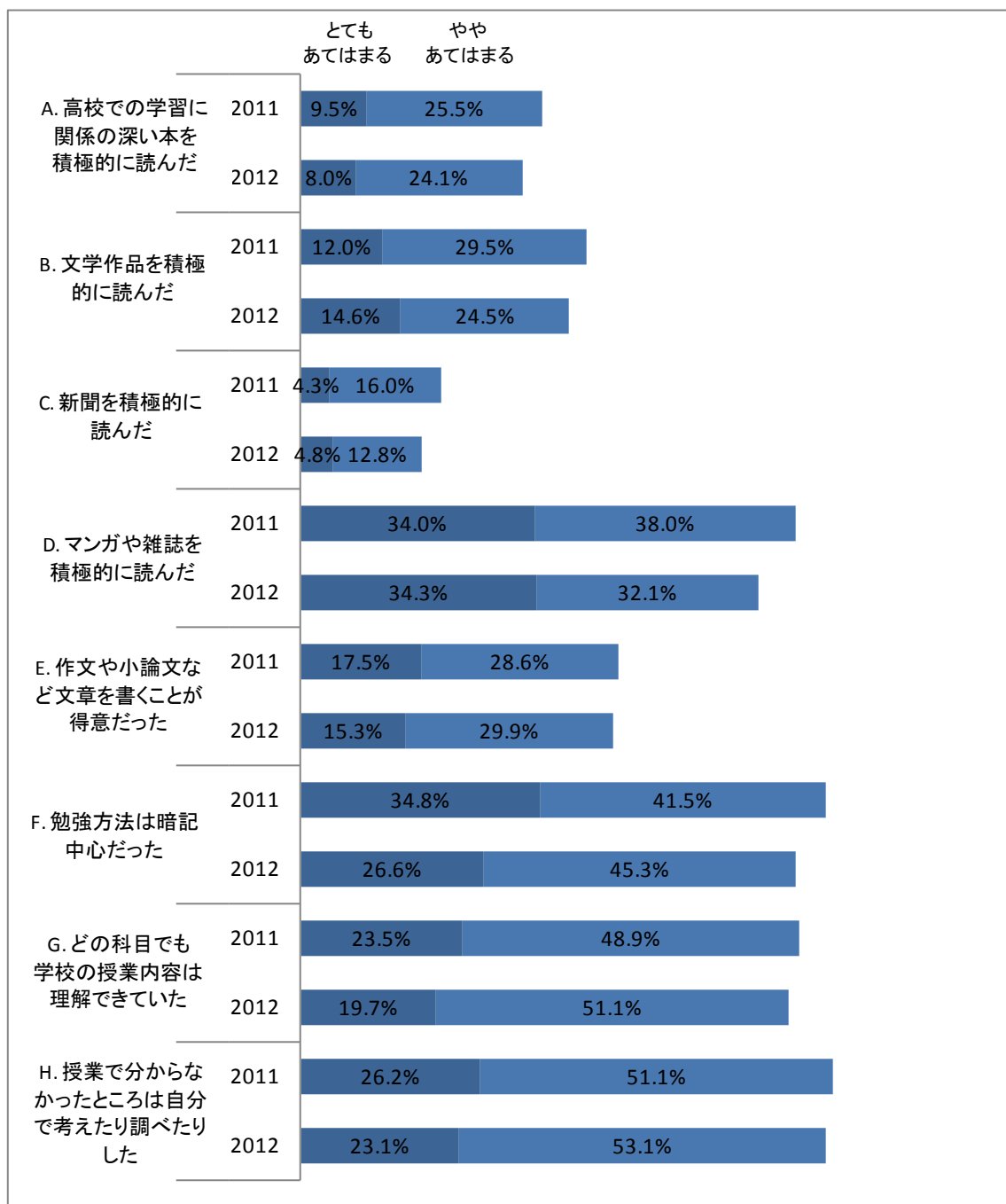


※ 2011年卒・2012年卒の両学年で人数が0人の都道府県は記載していない。

大学入学時点までのことがら

Q02 高校時代のあなたの習慣について、あてはまるものを1つ選んでください。

(「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法)



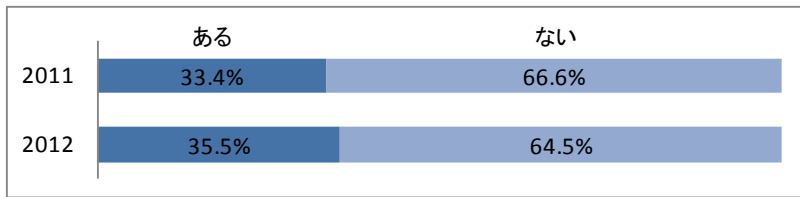
●高校時代から習慣化されていたもの（「あてはまる」、「ややあてはまる」の合算）

F、G、Hは、どちらの学年でも7割以上が行っていた。また特に2011年卒の学生はDの項目も多く、マンガや雑誌も高校時代に習慣の一つになっていることがうかがえる。

●高校時代には習慣化されていなかったもの

Cはほとんど習慣にはなっていない。また、Aも両学年で35%程度であり、まとまった文章や情報源を積極的に吸収するというよりは、Hのように分からないところを部分的に調べるタイプの学習が主であったことがうかがえる。

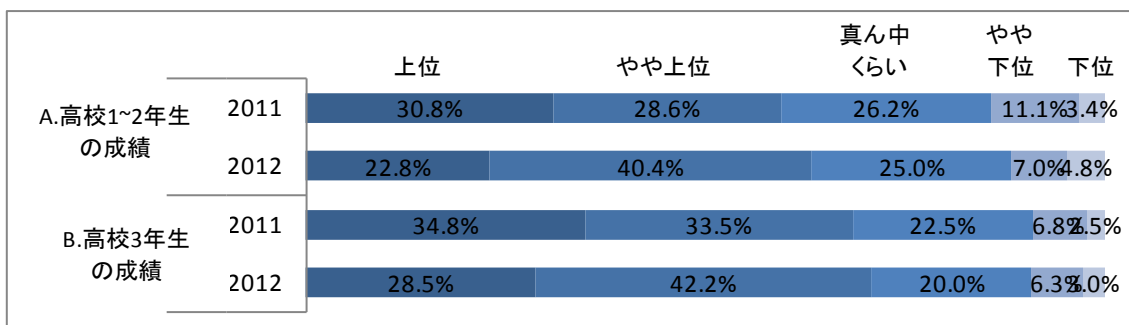
Q03 あなたは、中学・高校時代に、海外で過ごした経験（留学や短期研修旅行、修学旅行なども含む）がありますか。



	2011	2012
1週間未満	4	16
1週間以上2週間未満	30	20
2週間以上1ヶ月未満	44	35
1ヶ月以上2ヶ月未満	14	14
2ヶ月以上1年未満	4	6
1年以上	13	4
合計(人)	109	95
平均日数(日)	207.17	51.81

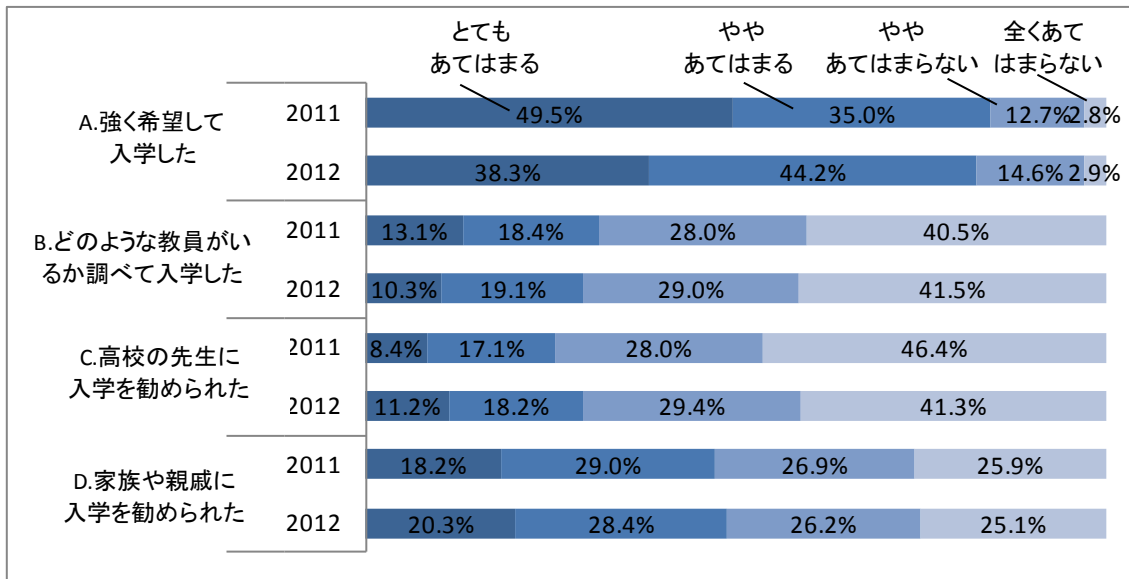
大学入学以前に海外経験がある学生は、両学年とも 35%程度であった。2週間以上のある程度中長期にわたった経験者も 2011 年卒で 75 名 (68.8%)、2012 年卒で 59 名 (62.1%) と 6 割を超えている。この二学年にかけては微増になっているものの、今後の継続的な調査での観察が必要であろう。

Q04 あなたの高校時代の成績はどのくらいだったと思いますか。
 (「上位」～「下位」の 5 件法)



高校3年生の成績は比較的上位であったと答えた学生が 68.3% (2011 年卒)、70.7% (2012 年卒) (「上位」、「やや上位」と、多くの学生は高校時代に上位にいたと自覚している。

Q05 あなたが卒業した学科への入学について、あてはまるものを1つ選んでください。
 (「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の5件法)

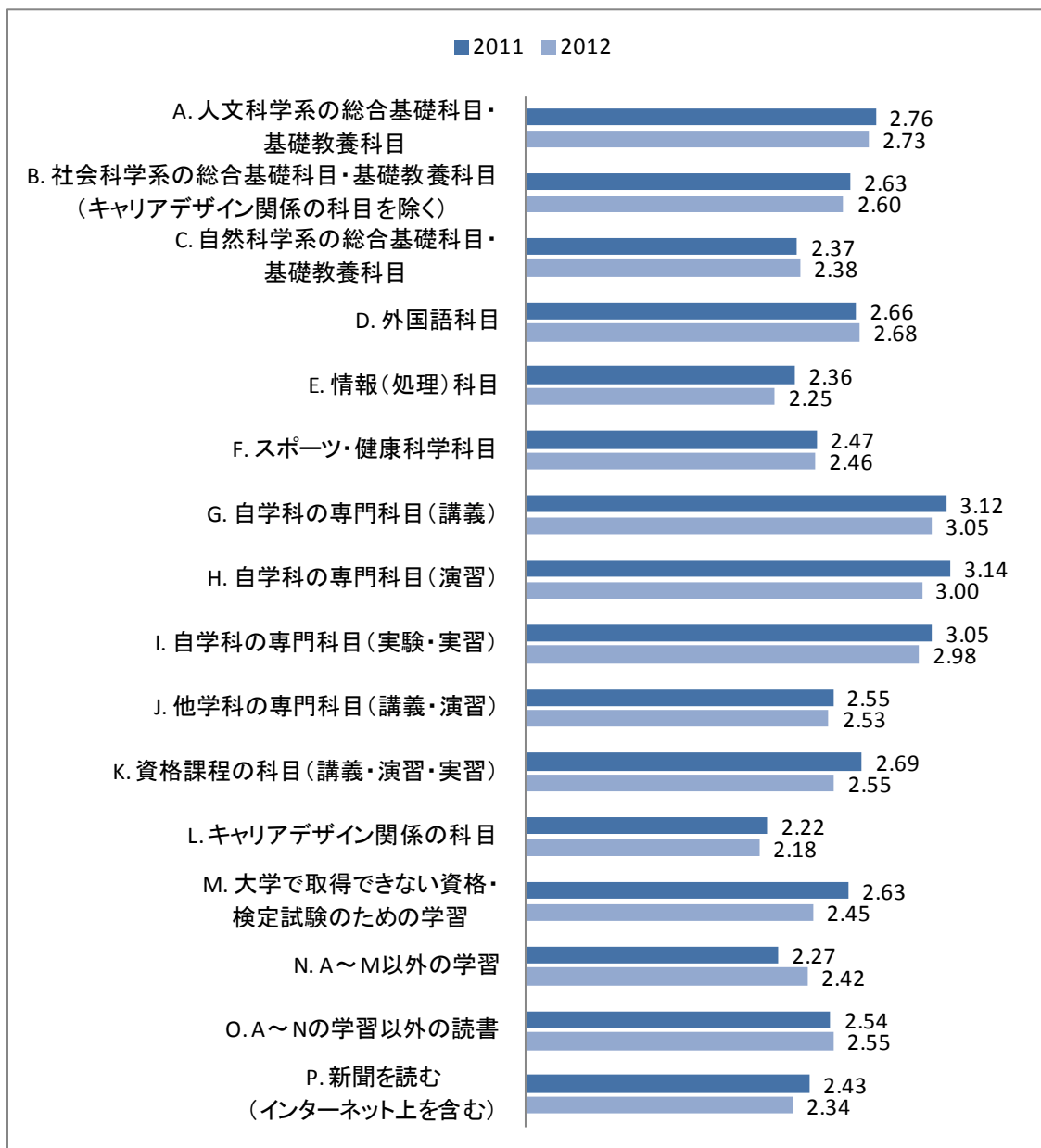


Aは「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」の合計が両学年とも80%を超えており、多くの学生が強く希望して入学したことがうかがえる。一方、教員まで調べて入学する学生は少ない。

他者からの勧めに関しては、家族・親戚からの勧めは50%弱程度、高校の先生からの勧めは30%未満であることがわかった。

大学時代における学習や課外活動

Q06 あなたは、大学在学中、大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。授業時間外の予習や復習なども考慮して、あてはまるものを1つ選んでください。（「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」（4）～「全く意欲的でなかった」（1）の5件法）

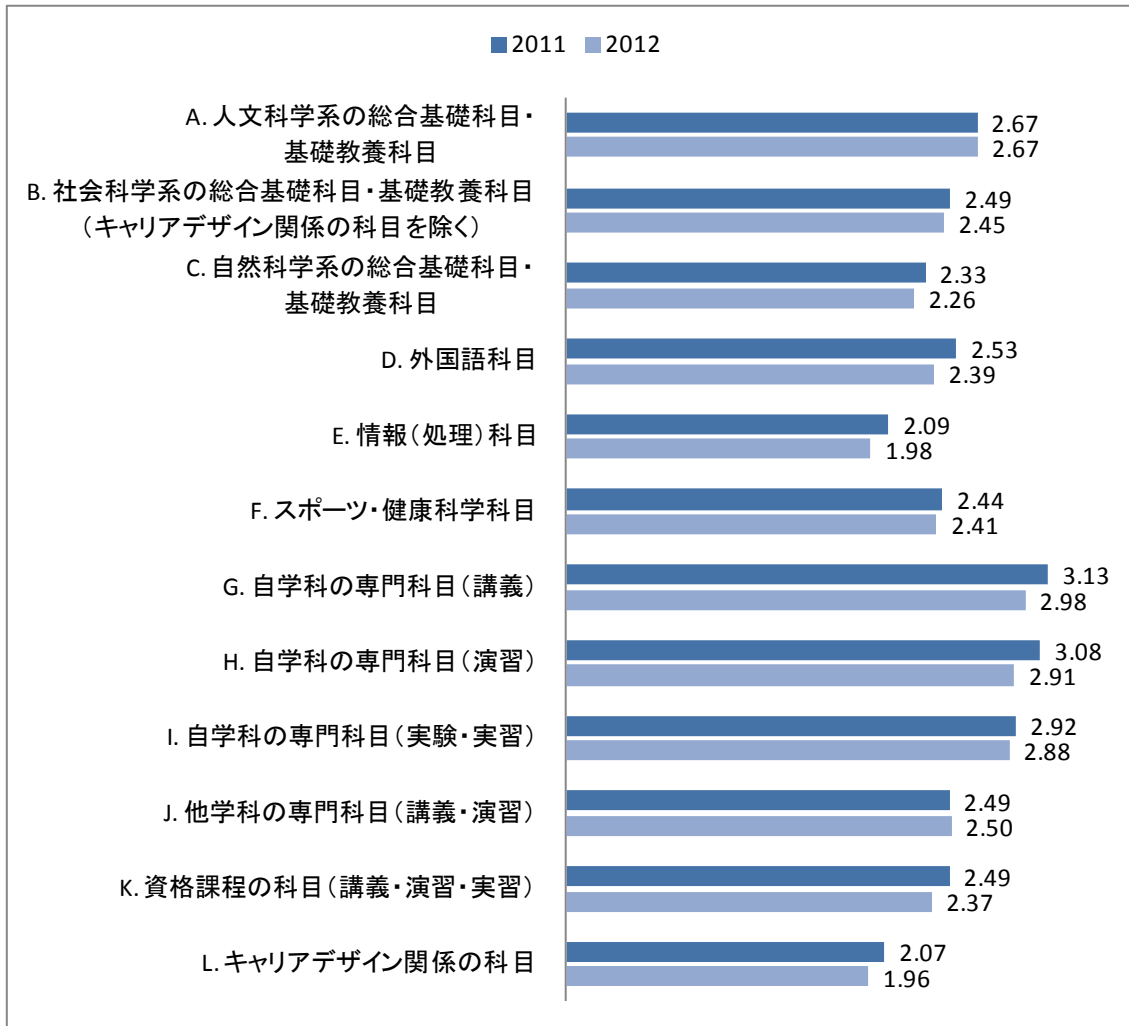


※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

両学年とも、G、H、Iといった自学科の専門に関する科目は意欲的に取り組んだことが分かる。一方、情報科目や、キャリアデザイン関係の科目には、あまり意欲的に取り組んではいなかったようである。二学年の間に違いはほとんど見受けられず、この結果は、この時期の本学卒業生の傾向といえるだろう。

Q07 あなたは、大学の授業の中で、授業を受けることが楽しみだった科目はどの程度ありましたか。

（「経験しなかった」を0として、「5割以上あった」（4）～「ほとんどなかった」（1）の5件法）

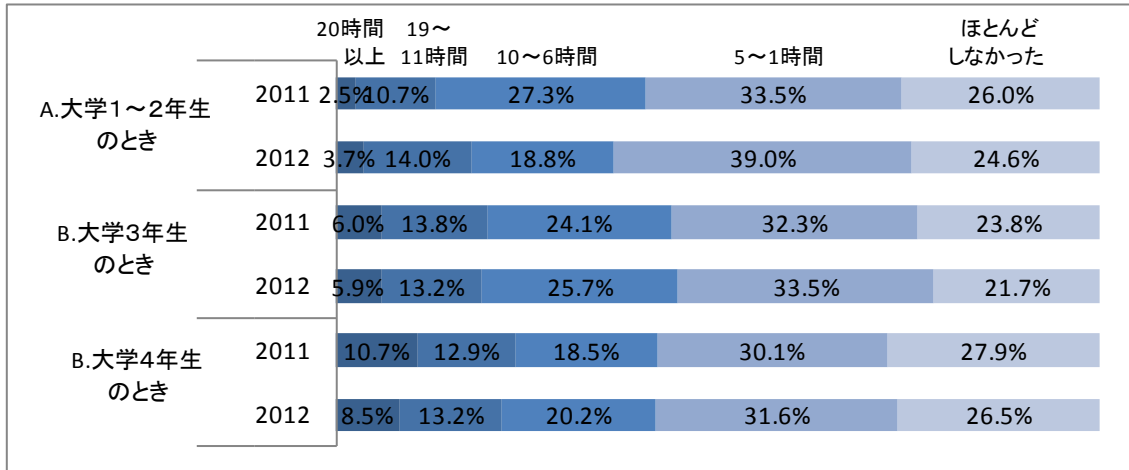


※ 平均値の計算には、0と回答した卒業生を含まない。

楽しみだった科目も、概ね自学科の学科の専門科目であったことが分かる。ここでも情報処理科目やキャリアデザイン関係の科目は低めの値であった。Q05 取り組み意欲との関連で観察できることとして、おおよそどの科目も傾向は同様だが、資格課程の科目に関しては、意欲的には取り組んでいたが、楽しみだったかというときほどではなかった、といえるかもしれない。これは、資格取得という目的が重視されていたことを示していると思われる。

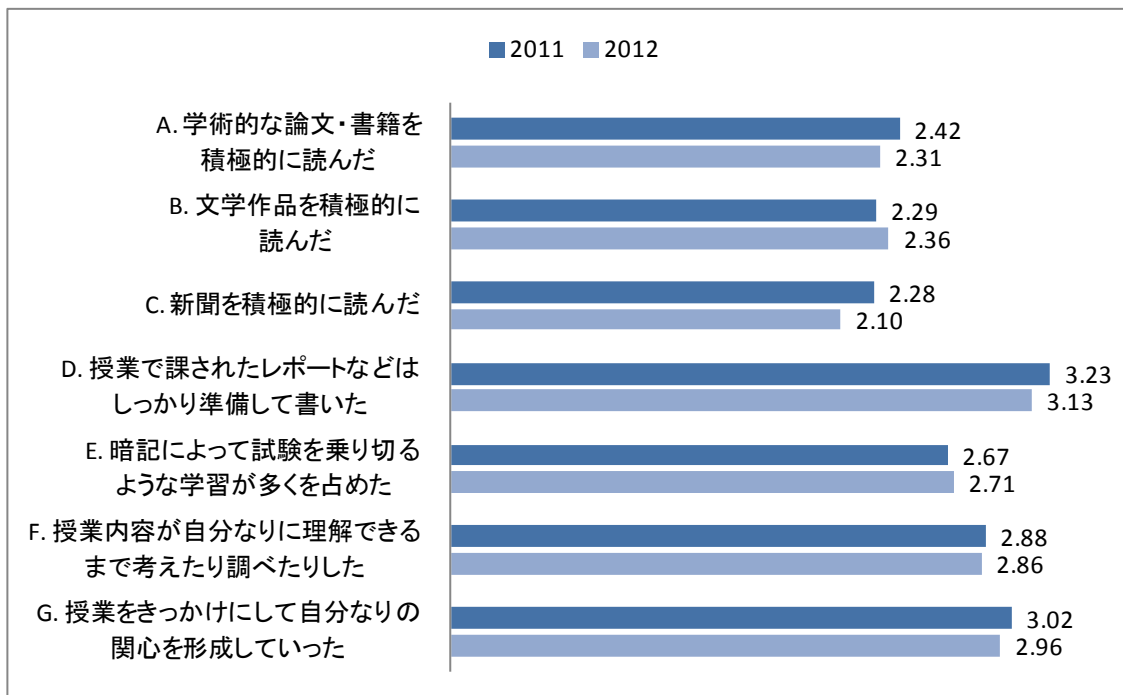
Q08 あなたは、大学在学中、1週間あたり平均でどのくらい「自学自習」（授業の予習・復習、レポート作成、授業とは関係のない学習などを含む日常的な学習時間で、定期試験のための学習時間は除きます）をしていましたか。

（「20時間以上」～「ほとんどしなかった」の5件法）



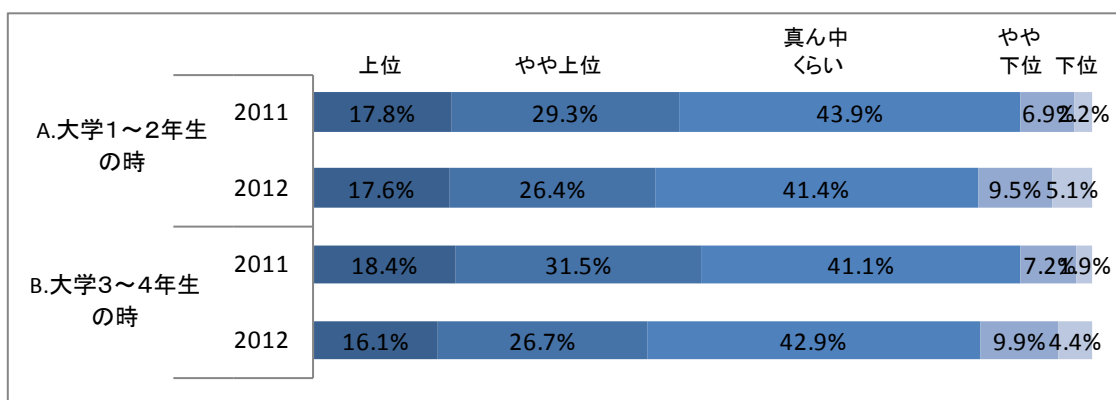
両学年とも、どの学年であったときも自学自習の時間は大きな変動がないように見受けられる。「時間」という観点でみると、大学1年生時、あるいはそれ以前（高校まで）に形成された学習習慣がそのまま維持されると考えるのが自然であろう。

Q09 あなたは、大学在学中、どのような学び方をしてきましたか。
 (「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



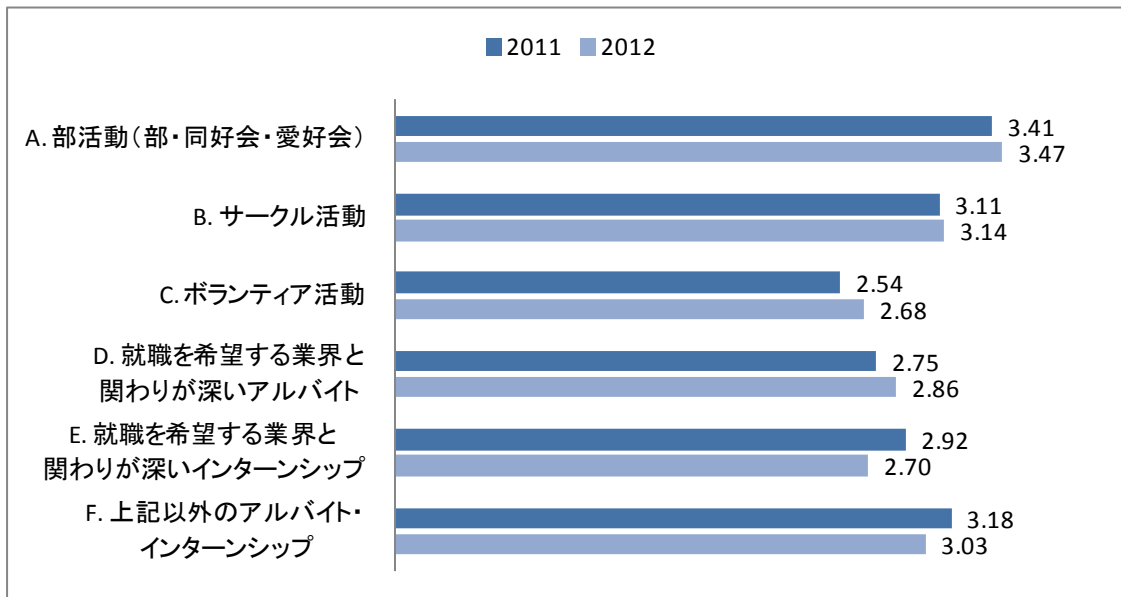
Dが最も高く、また平均で「ややあてはまる」の3を両学年で超えるため、授業での課題等へはしっかり準備して取り組んでいたことが分かる。また、暗記によって試験を乗り切るよりも、授業内容が理解できるまで調べたり、自分なりの関心を形成していったりと、思索をとまなう学習が行われていた。ただし高校までと同じく、新聞は読まれない傾向にある。

Q10 あなたの大学在学時の成績はどのくらいだったと思いますか。
 (「上位」～「下位」の5件法)



真ん中くらいと答えた卒業生が最も多く、「上位」、「やや上位」の回答がどの学年のときも40%を超え、回答者のうち半分程度が良い成績をとっていたと自覚している。

Q11 あなたは、大学在学中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。
 (「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」
 (1)の5件法)



経験者の人数と割合

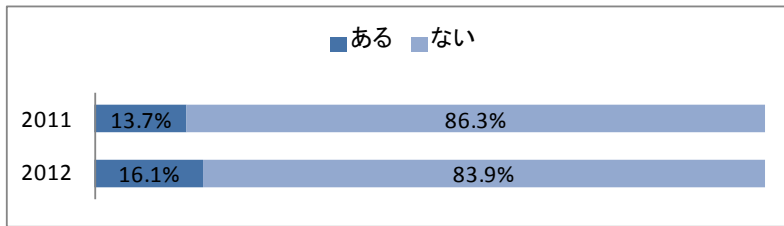
	2011		2012	
	経験者数	割合	経験者数	割合
A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	178	55.5%	149	55.0%
B. サークル活動	166	52.2%	138	50.7%
C. ボランティア活動	81	25.2%	81	29.9%
D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	111	34.7%	95	34.9%
E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	95	29.8%	81	29.9%
F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	228	71.5%	212	78.2%

部活動やサークル活動の経験者は半数以上で、意欲も高く、活発に活動していたことがうかがえる。一方、ボランティア活動の経験者は25%程度で、意欲も相対的に低い値であった。

Fの就職を希望する業界に関連しないアルバイト・インターンシップの経験者は両学年とも70%を超え、またDやEよりも意欲が高い傾向にある。このことは、就職を希望する業界とは関連しないことから、プレッシャーをあまり感じないからなどの理由が考えられるが、引き続き検討が必要と思われる。

Q12 あなたは、大学在学中、留学（海外短期研修や国際ボランティアなどを含みますが、単なる海外旅行は除きます）の経験がありますか。

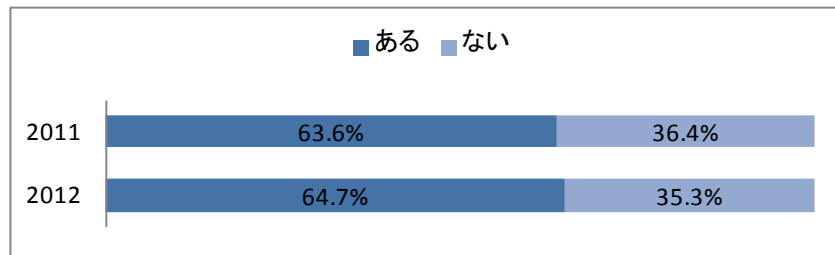
（経験の有無と経験ありの場合の日数）



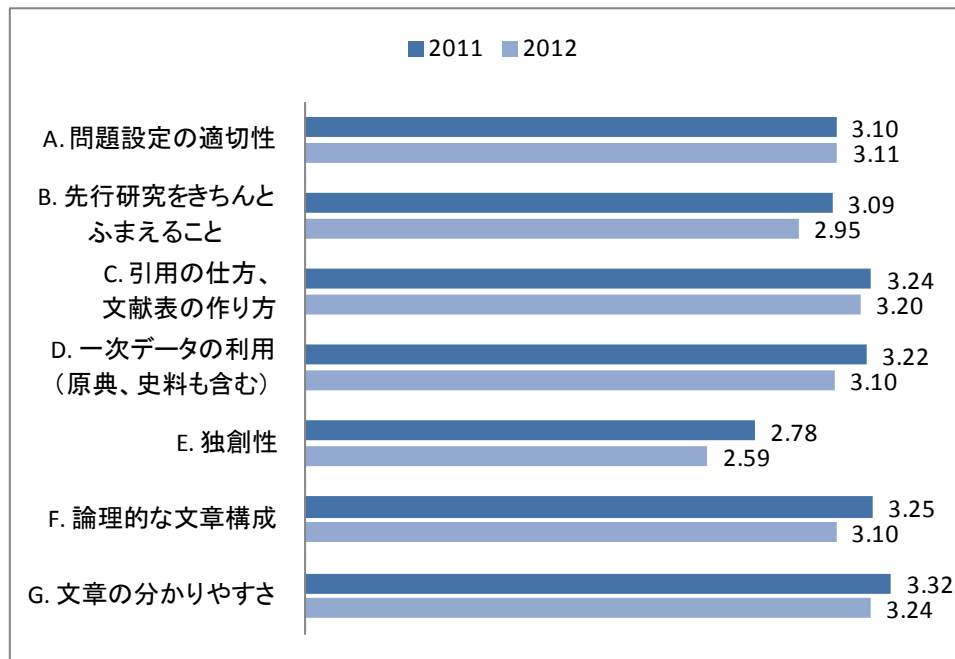
	2011	2012
1週間未満	0	1
1週間以上2週間未満	9	2
2週間以上1ヶ月未満	10	9
1ヶ月以上2ヶ月未満	14	20
2ヶ月以上1年未満	9	9
1年以上	2	3
合計	44	44
平均日数	60.32	77.80

大学時代の海外経験は15%前後で、経験人数・期間ともに両学年で同様の傾向であった。平均日数は2～3ヶ月だが、主に、1ヶ月～2ヶ月間の中期プログラムへの参加が多い。

Q13 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を執筆しましたか。
 （経験の有無と経験ありの場合日数）



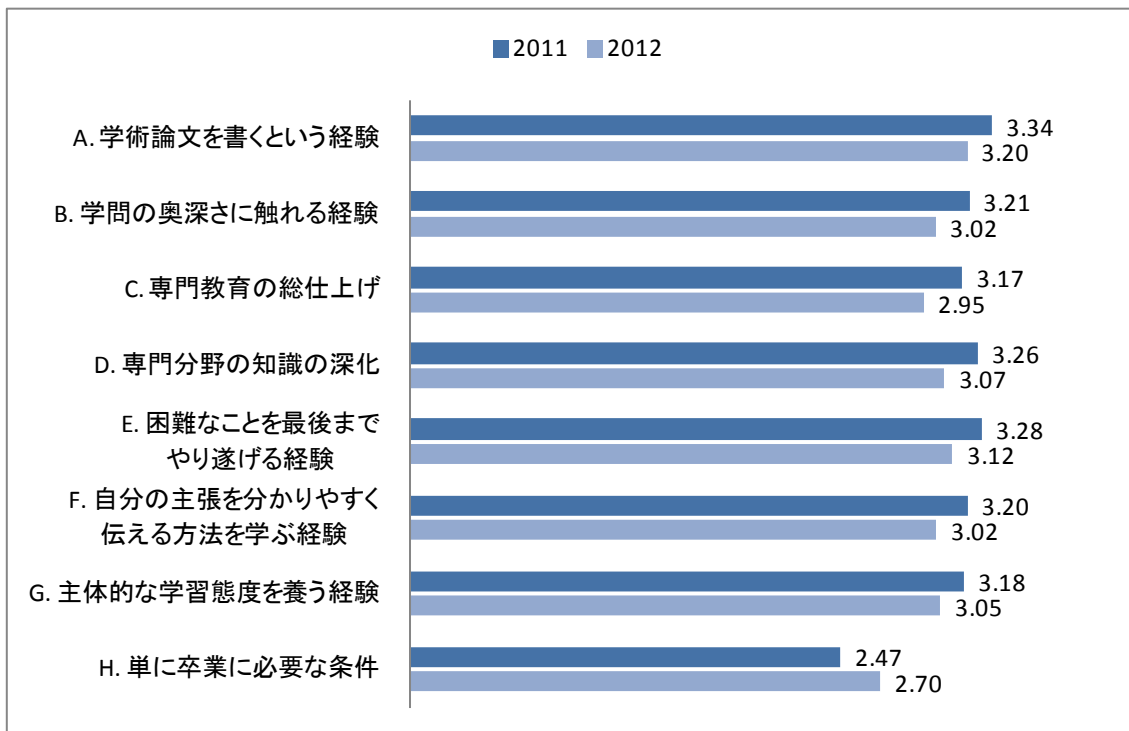
Q14 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を書くときに、以下の点をどのくらい意識していましたか。
 （「とても意識した」（4）～「全く意識しなかった」（1）の4件法）



卒業論文・卒業研究は、全体の60%強が執筆しており、執筆にあたり意識した点も両学年とも同様の傾向であった。Eを除き、どの項目も一定程度意識されているようである。Eと比較して、相対的に先行研究やその分野における問題設定の適切性が意識されていることから、研究の基本的な流れにしっかりと則った経験を積むことが重視されているといえるだろう。

Q15 今のあなたにとって、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）の執筆にはどのような意義があったと思いますか。

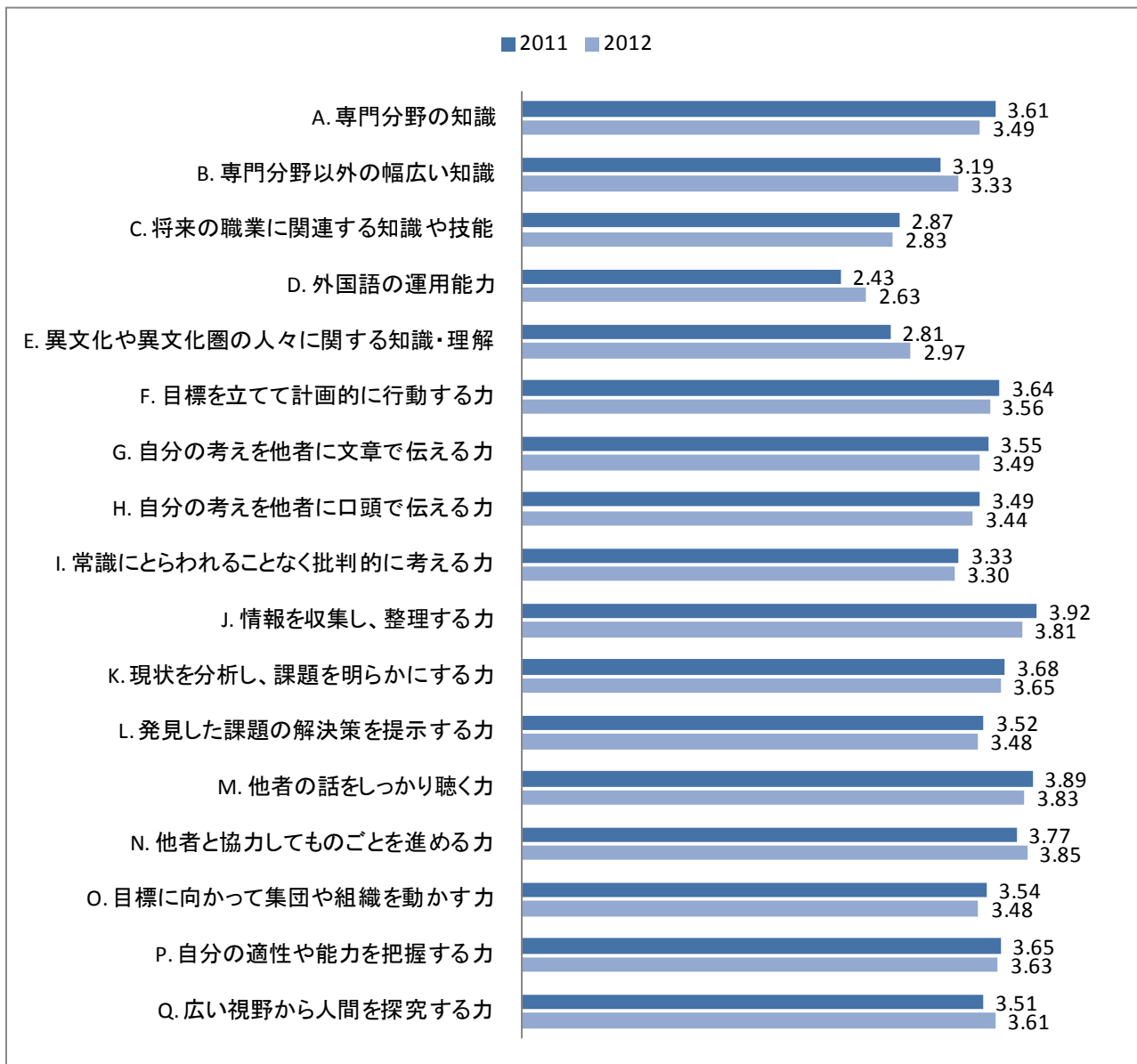
（「とてもあてはまる」（4）～「全くあてはまらない」（1）の4件法）



H 以外の項目は、どの項目も一定程度意義として感じられているようである。卒業後5年経過時点で、振り返って卒論・卒研の執筆体験の意義を様々な側面から感じ取っていることがうかがえる。

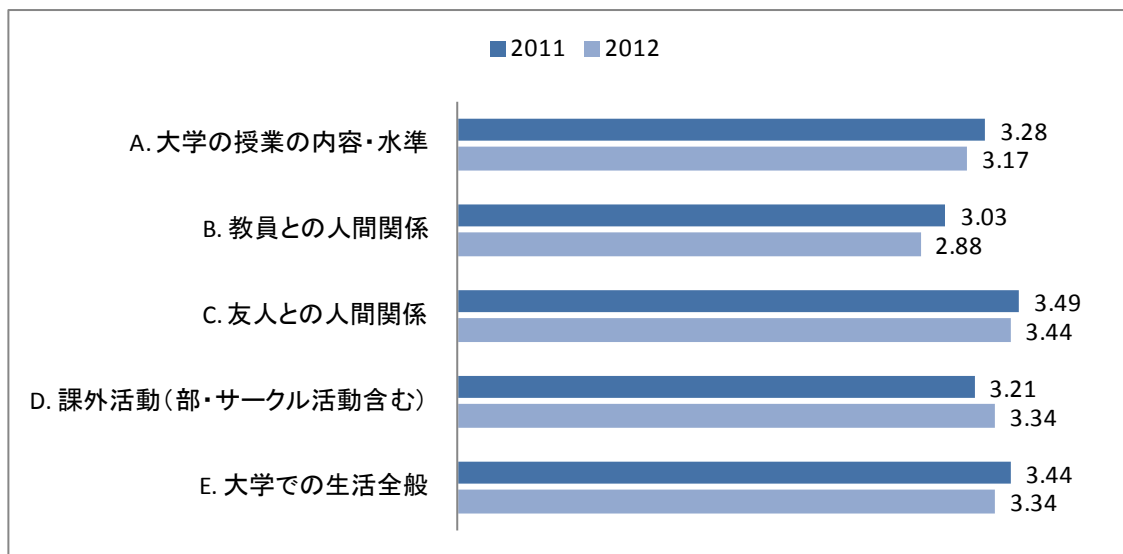
Q16 大学卒業段階で、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができたと思いますか。

(「しっかり身についた」(5)～「全く身につかなかった」(1)の5件法)



両学年とも、平均で4を超える項目はなかった。相対的に値が高い項目は、J、M、Nが挙げられる。M・Nといった他者との協調性に関する項目が高いことは、本学学生の卒業時の強みといえるかもしれない。翻って、DやEのような外国語や異文化理解に関する能力の向上は課題であることが分かる。

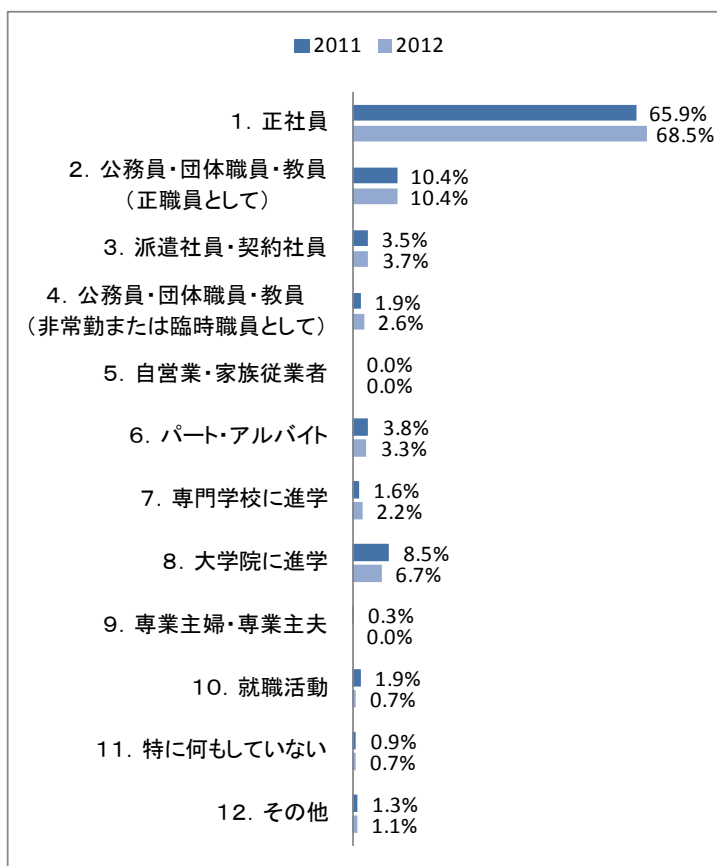
Q17 あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。
（「とても満足している」（4）～「全く満足していない」（1）の4件法）



概ねどの項目においても3を超えており、全般的には高い値であった。友人との人間関係に比べて、教員との人間関係への満足度は低い。友人との関係と教員との関係とは異なる性質のものであるから、どのような関係が適切であるかを検討し、学生と共有していくことは価値ある取組みかもしれない。

大学卒業後のことがら

Q18 あなたが大学を卒業した直後の進路としてあてはまるものを1つ選んでください。
(複数ある場合は主たるもの1つを選択)

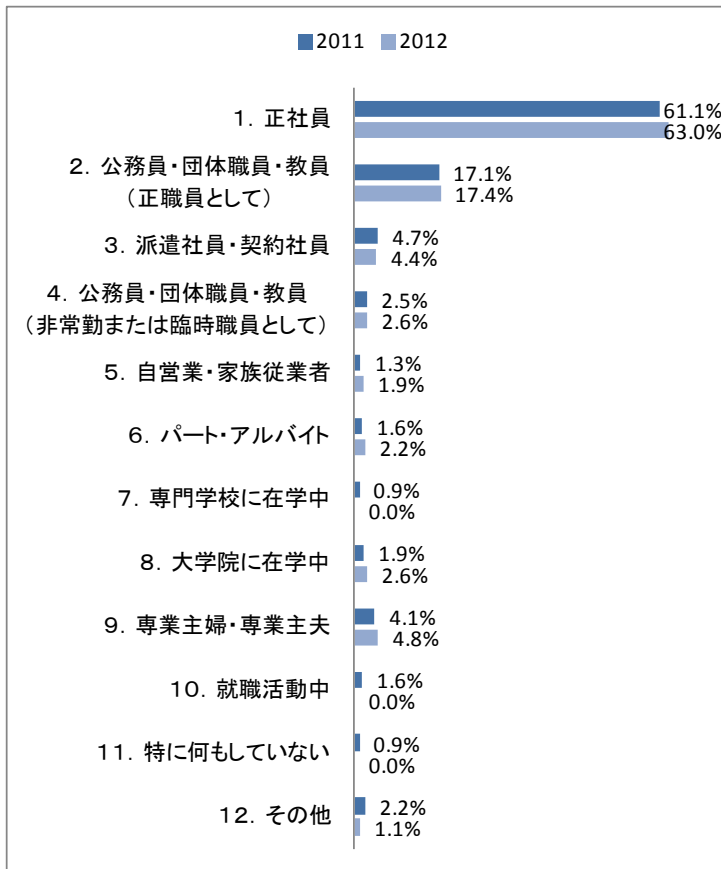


	2011	2012
1. 正社員	209	185
2. 公務員・団体職員・教員 (正職員として)	33	28
3. 派遣社員・契約社員	11	10
4. 公務員・団体職員・教員 (非常勤または臨時職員として)	6	7
5. 自営業・家族従業者	0	0
6. パート・アルバイト	12	9
7. 専門学校に進学	5	6
8. 大学院に進学	27	18
9. 専業主婦・専業主夫	1	0
10. 就職活動	6	2
11. 特に何もしていない	3	2
12. その他	4	3

民間企業が65%以上、公務員が10%、大学院への進学が7~8%で、あわせて約80%以上を占める結果となった。この二学年間に、特段の傾向の違いはみられない。

任意のアンケート調査であることから、回答に偏りがあることは否定できないが、卒業時に進路が未定であった者は僅少であった。

Q19 あなたの現況（各年の調査時期）としてあてはまるものを1つ選んでください。
 （複数ある場合は主たるもの1つを選択）



	2011	2012
1. 正社員	193	170
2. 公務員・団体職員・教員 (正職員として)	54	47
3. 派遣社員・契約社員	15	12
4. 公務員・団体職員・教員 (非常勤または臨時職員として)	8	7
5. 自営業・家族従業者	4	5
6. パート・アルバイト	5	6
7. 専門学校に進学	3	0
8. 大学院に進学	6	7
9. 専業主婦・専業主夫	13	13
10. 就職活動	5	0
11. 特に何もしていない	3	0
12. その他	7	3

	2011	2012
1. 正社員	-16	-15
2. 公務員・団体職員・教員	21	19
3. 派遣社員・契約社員	4	2
4. 公務員・団体職員・教員	2	0
5. 自営業・家族従業者	4	5
6. パート・アルバイト	-7	-3
7. 専門学校に在学中	-2	-6
8. 大学院に在学中	-21	-11
9. 専業主婦・専業主夫	12	13
10. 就職活動中	-1	-2
11. 特に何もしていない	0	-2
12. その他	3	0

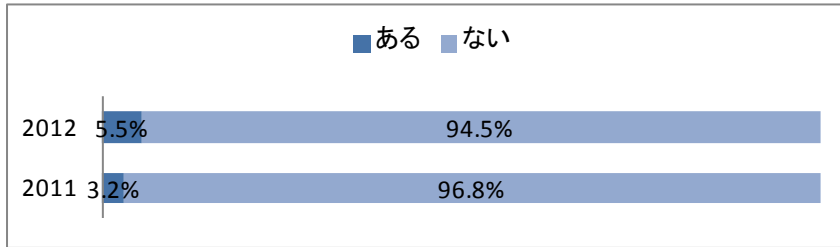
大学卒業後に関する Q18 と比較すると、正社員の割合が減り、公務員・団体職員・教員が増加している。また、専門学校生・大学院生は減少、専業主婦・主夫は増加した。ここでは個人個人のデータの変動は参照していないが、卒業後の5年間にこのような変動があり、ライフステージの変化が見てとれる。

Q20 あなたは、これまでに海外での勤務経験がありますか。

(ある or ないの2択。ある場合は、期間も回答)

経験ありなしの割合

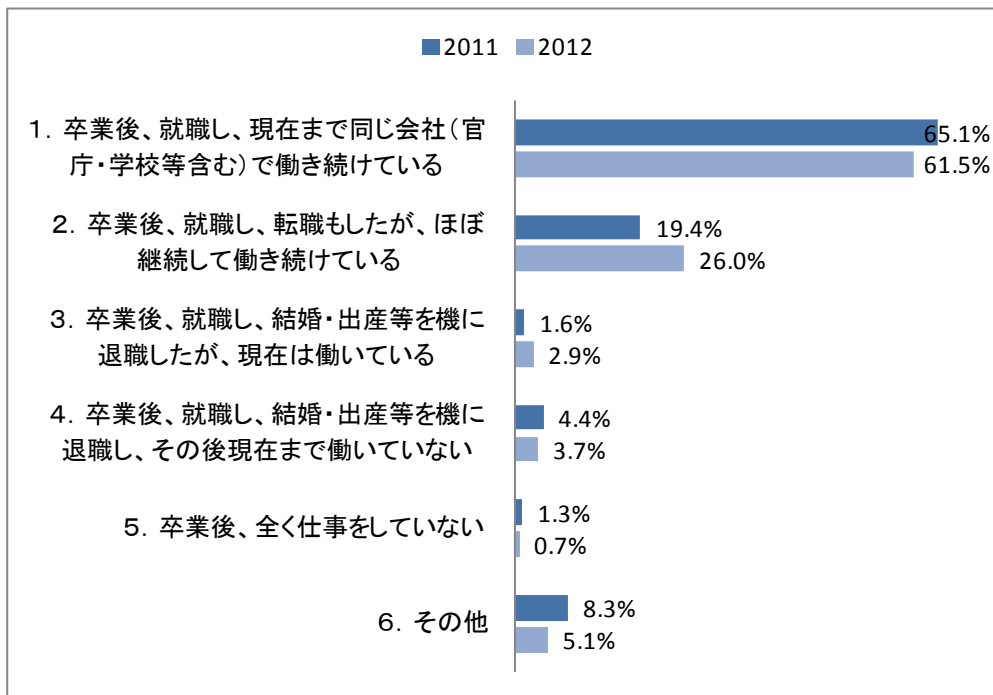
経験者の滞在期間の分布



	2011	2012
1年未満	3	8
2年未満	3	3
3年未満	1	2
4年未満	1	1
5年未満	2	1

卒業後5年間で、海外における勤務を経験した者はごくわずかであった。経験年数は幅広く、卒業後ほぼずっと海外で勤務している、という卒業生もあった。

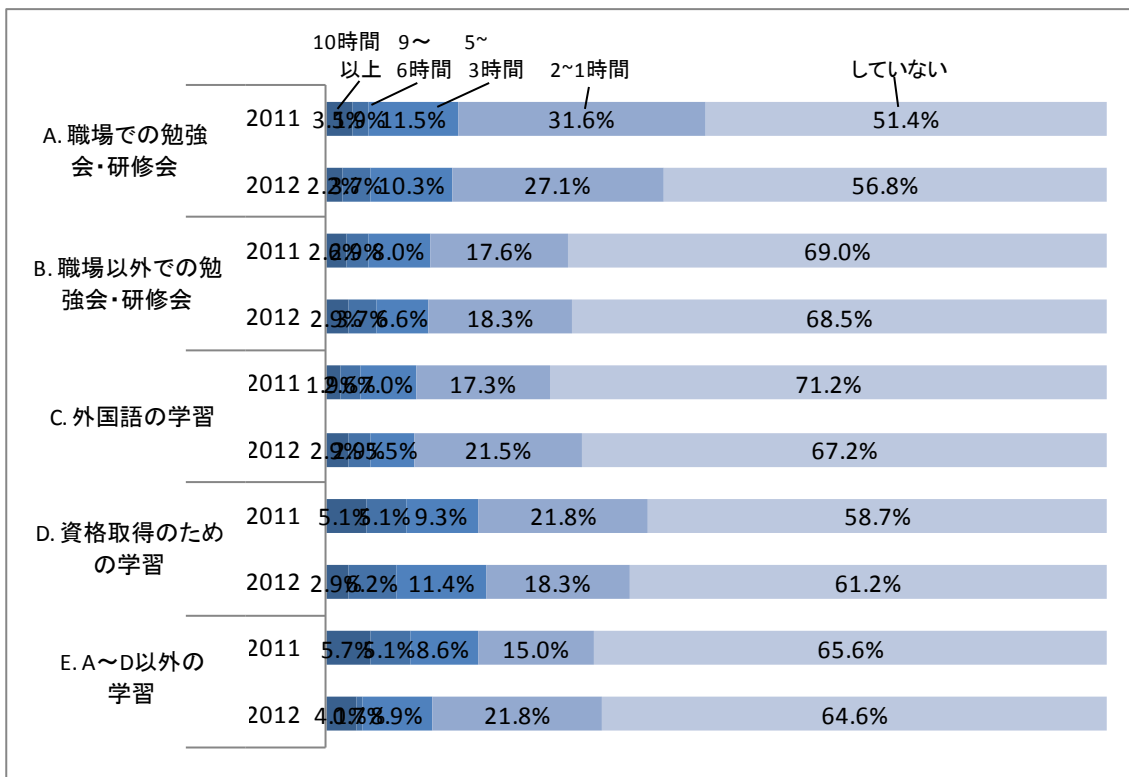
Q21 あなたは、大学卒業後、仕事とおおよそどのような関わり方をしてきましたか。
(1つを選択)



	2011	2012
1. 卒業後、就職し、現在まで同じ会社(官庁・学校等含む)で働き続けている	205	168
2. 卒業後、就職し、転職もしたが、ほぼ継続して働き続けている	61	71
3. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職したが、現在は働いている	5	8
4. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職し、その後現在まで働いていない	14	10
5. 卒業後、全く仕事をしていない	4	2
6. その他	26	14

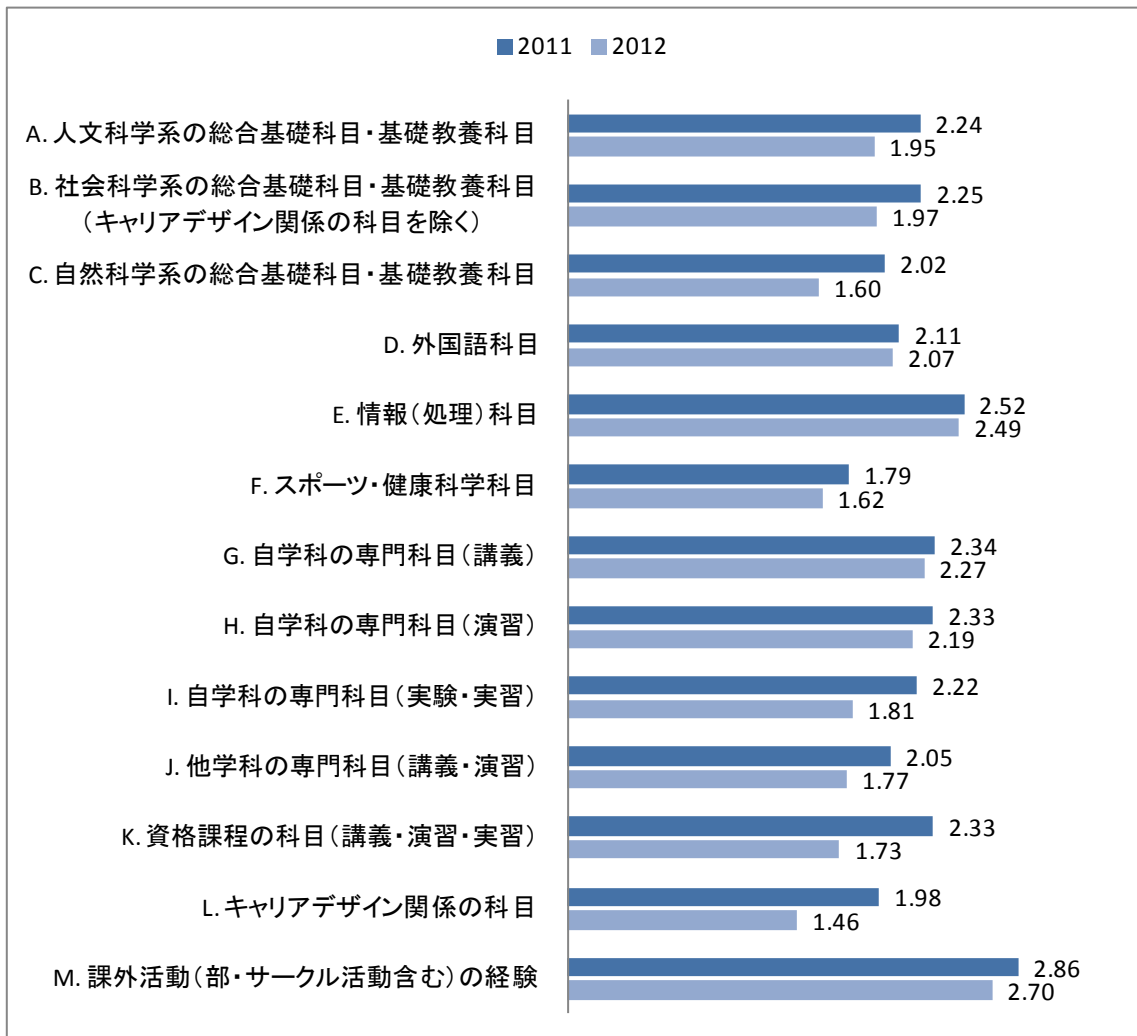
Q18 から Q19 にかけての変動の一部はここに表れている。卒業して就職後、経緯を問わず現在も働き続けている者は 2011 年卒で 86%、2012 年卒で 90.5%であった (1～3 の合算)。また、卒業直後の就職先からみると、5 年離職率は 35～40% に入ることとなる。

Q22 あなたは、現在の仕事や将来のキャリアのために、以下のような活動を1週間あたり平均でどのくらい行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。
 (「10時間以上」～「していない」の5件法)



どの項目も、少なくとも半分以上の卒業生がしていないと回答した。している場合も、多くが2～1時間であった。外国語は、卒業時点もあまり身についたと評価されなかった項目だが、卒業後もあまり学習する時間を取られていないことがうかがえる。

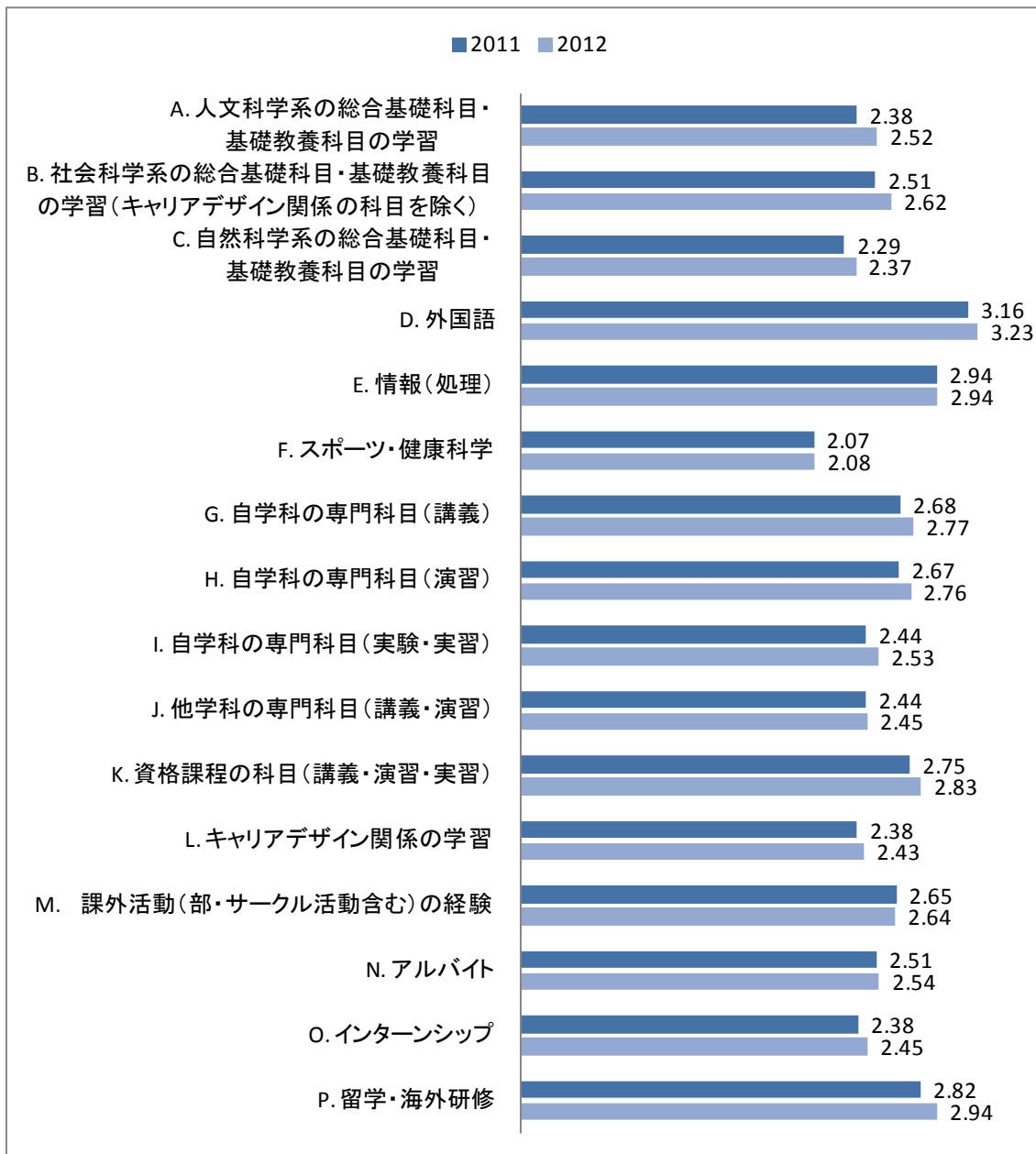
Q23 大学時代の学びや経験は、あなたの現在の仕事にどのくらい役に立っていると思いますか。
 (「経験しなかった」を0として、「とても役立っている」(4)～「全く役立っていない」
 (1)の5件法)



課外活動の項目が最も評価が高く、卒業時点で他者と協調する力が最もよく身についた(Q16)との結果も踏まえると、何かしらの組織に所属する経験が現在まで役立っていることの表れであると考えられる。また、ついで評価が高い情報科目は、在学中あまり意欲的に取り組まれてはいなかった(Q06)ものの、比較的、社会に出て役立ったと認識されている。

Q24 大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありませんか。

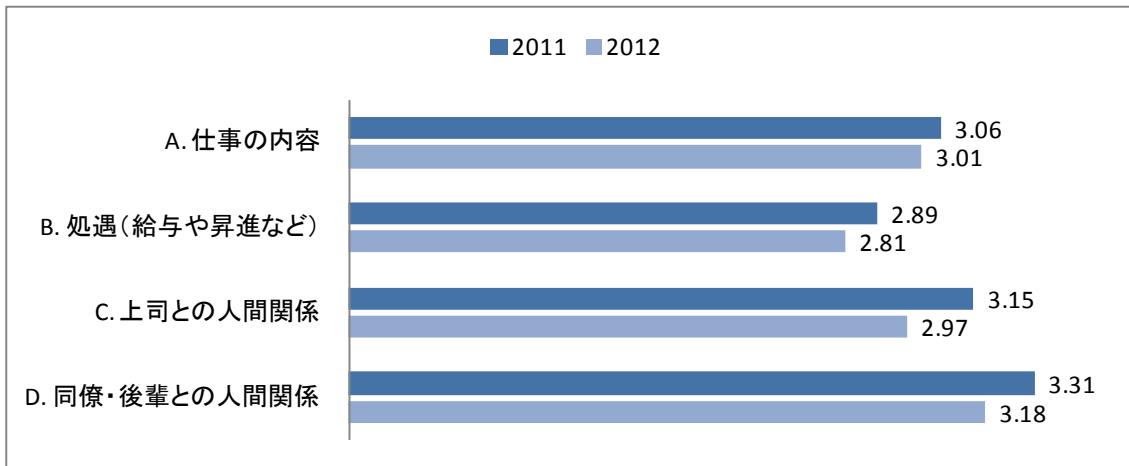
(「とてもそう思う」(4)～「全くそう思わない」(1)の4件法)



外国語が最も高く、ついで、情報科目、留学・海外研修と続く結果となった。いずれもあまり意欲的に取り組まれなかった(Q06)項目でもあったため、大学時代を振り返っての後悔の念もあるかと思われる。また、情報処理科目は、社会に出て役立つ科目としてはトップであることから、卒業後の有用性も考えると、今後ニーズがより高まる科目といえるかもしれない。

Q25 あなたは、現在の仕事についてどの程度満足していますか。

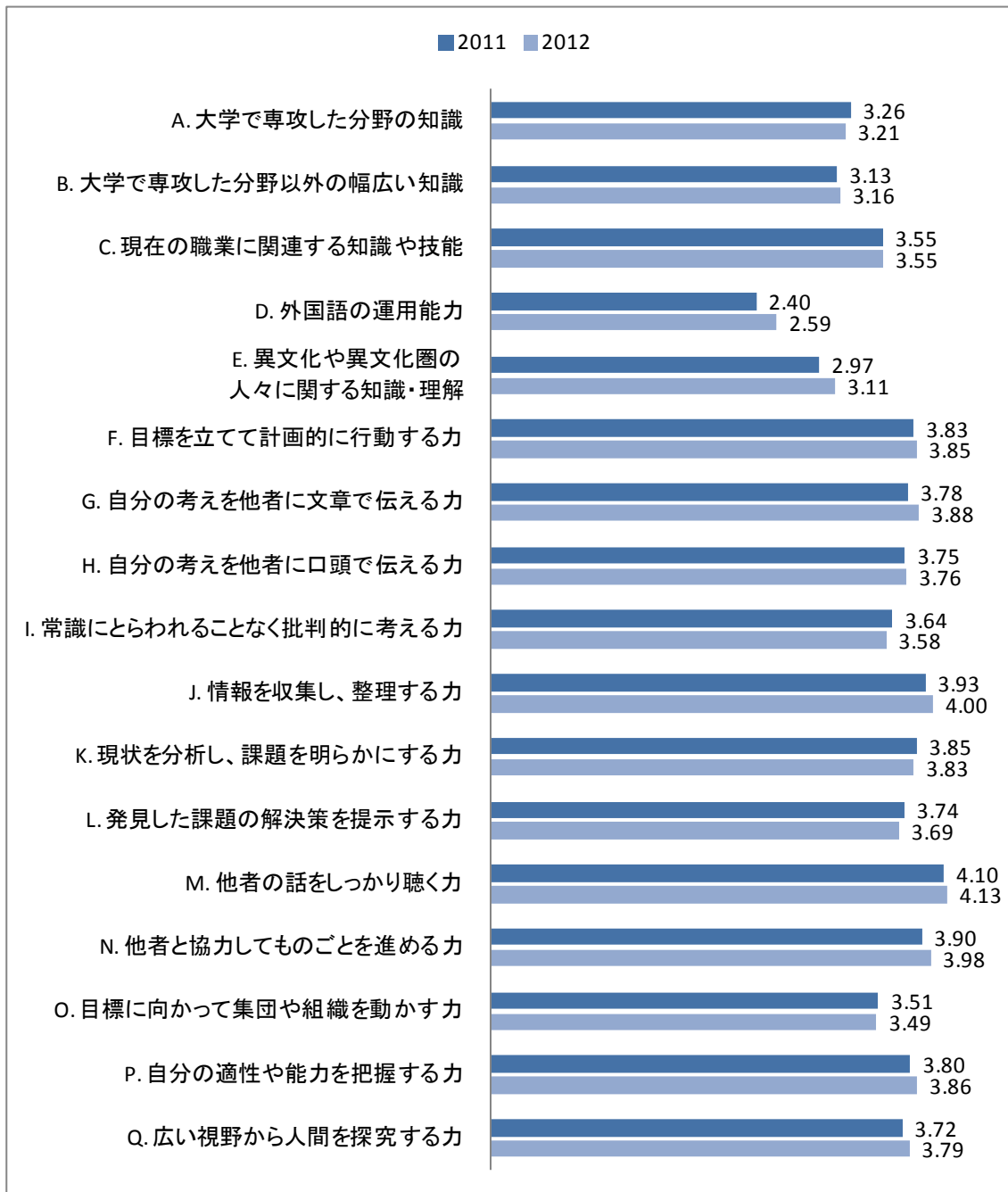
（「現在仕事はしていない」を0として、「とても満足している」（4）～「全く満足していない」（1）の5件法）



※ 平均値の計算には、0 と回答した卒業生を含まない。

どの項目も平均は3に近く、概ね満足している卒業生が多いことがうかがえる。同僚・後輩との人間関係は特に満足度が高い項目といえ、部活動やサークル活動、あるいはゼミ等の学習で同期や後輩と一緒に過ごす経験で培われた力が、社会に出ても役立っているのかもしれない。

Q26 現在、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけていると思いますか。
 (「しっかり身につけている」(5)～「全く身につけていない」(1)の5件法)



卒業時点で身につけていた項目と同様、M、Nは相対的に高い値を示し、本学卒業生には強みと自覚されていることがうかがえる。外国語や異文化理解に関する項目は、この時点でも低い値であり、また、現在学習している割合も低かったため、社会に出た後も能力を向上させる機会が少ないようである。

第2章 大学時代の意欲の類型とその後の学修実感や進路

1. 分析の目的

卒業生調査の目的を改めて確認すると、学生時代の学びが卒業時または卒業後の知識、能力、進路にどのような関係を持っているかを確認することであった。

大学における授業等のカリキュラムの他に、学生生活に存在する様々な活動を含めると、どのような活動を積極的に行ったかは、学生によって多様であることは想像に難くない。また、そのような大学時代の経験が、大学時代の学修成果やその後の生活にも影響を及ぼしていることが考えられる。課外活動などでどのような活動を行うかは学生の自由であり、従って意欲的に取り組む活動の組み合わせにもタイプが存在し、タイプによって特に身についたと実感する内容は異なると予想される。

本章では、学生が意欲的に取り組んだ大学内外での活動と学修成果・その後の生活との関係を調べるために、卒業生調査をもとに、卒業生が学生時代どのような活動に意欲的に取り組んでいたかを類型化し、その類型と学修成果・その後の生活との関係を検証することを目的とする。

2. 分析の方法と結果

2-1. 卒業生の類型化

本章では、平成23年3月と平成24年3月に卒業した卒業生に対して卒業後5年経過後に実施した調査データを利用し、2段階で分析を行った。概要としては、まず大学内外の学習や活動にどの程度意欲的に取り組んだかを問うQ6及びQ11の19項目の回答値（「経験しなかった」を0として、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」(1)の5件法）を用いて、卒業生の類型化を行った。結果として、7つのクラスタに分けることでクラスタの明確な特徴が見られたと判断した。（分析方法に「クラスタ分析」を用いたので、卒業生の類型のことをクラスタと称する。分析の詳細は章末の「分析方法の詳細」を参照）

図1は、意欲的な取り組みに関する19項目の回答値について、クラスタごとに平均値をグラフ化したものである。

表1は、クラスタごとに「経験しなかった」(0)以外の回答をした人数の割合（経験人数割合）をまとめたものである。

表2は、クラスタ間で各項目の平均値を比較したときに、統計的に有意な差が見られたかをまとめたものである。他の3つ以上のクラスタよりも有意に高い値を示したクラスタの番号に○を付した。

これらの結果を総合して、各クラスタの特徴を表現したものが表3である。

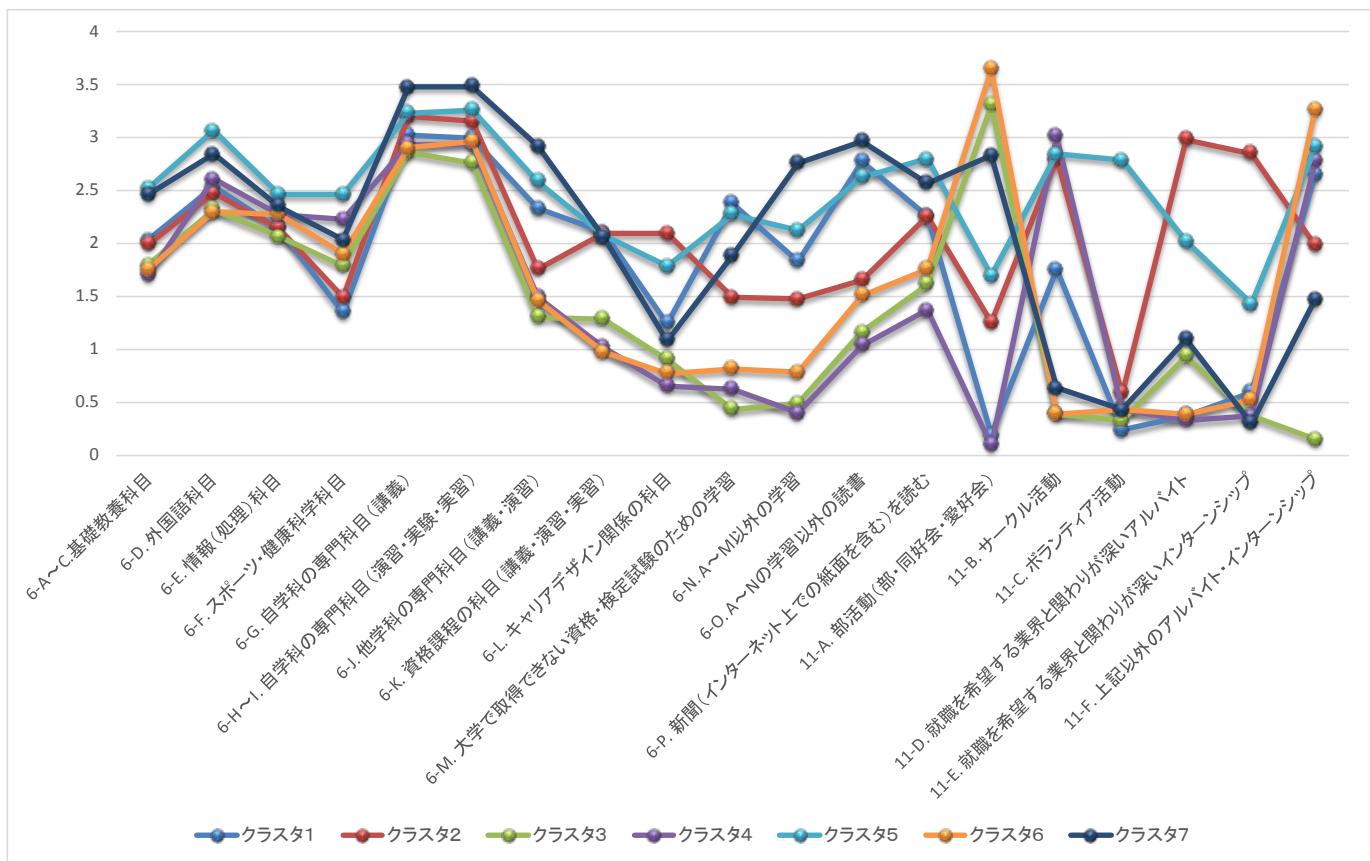


図1 意欲的な取り組みに関するクラスタごとの平均

表1 19項目の各クラス内の経験人数割合 (Q06・Q11の回答ベース)

	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	クラス6	クラス7
6-A~C.基礎教養科目	—	—	—	—	—	—	—
6-D. 外国語科目	93.5%	98.2%	96.8%	98.8%	100.0%	93.0%	98.4%
6-E. 情報(処理)科目	94.8%	98.2%	98.4%	96.3%	100.0%	98.0%	98.4%
6-F. スポーツ・健康科学科目	68.8%	69.1%	72.6%	79.0%	95.4%	78.0%	85.7%
6-G. 自学科の専門科目 (講義)	98.7%	100.0%	100.0%	98.8%	100.0%	99.0%	98.4%
6-H~I. 自学科の専門科目 (演習・実験・実習)	—	—	—	—	—	—	—
6-J. 他学科の専門科目 (講義・演習)	88.3%	76.4%	64.5%	64.2%	95.4%	64.0%	92.1%
6-K. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	72.7%	83.6%	53.2%	42.0%	78.5%	44.0%	68.3%
6-L. キャリアデザイン関係の 科目	59.7%	78.2%	45.2%	33.3%	75.4%	39.0%	52.4%
6-M. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	90.9%	60.0%	25.8%	28.4%	83.1%	36.0%	69.8%
6-N. A~M以外の学習	77.9%	61.8%	27.4%	27.2%	83.1%	40.0%	95.2%
6-O. A~Nの学習以外の読書	94.8%	76.4%	54.8%	51.9%	96.9%	66.0%	100.0%
6-P. 新聞(インターネット上 での紙面を含む)を読む	93.5%	90.9%	77.4%	74.1%	100.0%	79.0%	98.4%
11-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	11.7%	38.2%	90.3%	4.9%	53.8%	100.0%	82.5%
11-B. サークル活動	63.6%	87.3%	11.3%	87.7%	90.8%	15.0%	23.8%
11-C. ボランティア活動	13.0%	29.1%	11.3%	14.8%	96.9%	17.0%	20.6%
11-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	16.9%	94.5%	32.3%	14.8%	72.3%	13.0%	38.1%
11-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	22.1%	87.3%	16.1%	17.3%	50.8%	19.0%	14.3%
11-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	87.0%	61.8%	11.3%	87.7%	95.4%	100.0%	54.0%

表2 各クラスターの取り組み意欲に関する分散分析結果

項目名	分散分析結果 (※1)	多重比較結果 (※2)	3つ以上のクラスターと有意な差のあったクラスター						
			1	2	3	4	5	6	7
6-A~C.基礎教養科目	p<.01	C5 > C1,C3,C4,C6 C7 > C3,C4,C6					○		○
6-D. 外国語科目	p<.01	C5 > C1,C2,C3,C4,C6 C7 > C3,C6					○		
6-E. 情報(処理)科目	p>.10	—	—	—	—	—	—	—	—
6-F. スポーツ・健康科学科目	p<.01	C4 > C1,C2 C5 > C1,C2,C3,C6 C6 > C1 C7 > C1					○		
6-G. 自学科の専門科目 (講義)	p<.01	C7 > C1,C3,C4,C6							○
6-H~I. 自学科の専門科目 (演習・実験・実習)	p<.01	C5 > C3 C7 > C1,C3,C4,C6							○
6-J. 他学科の専門科目 (講義・演習)	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C5 > C2,C3,C4,C6 C7 > C1,C2,C3,C4,C6	○				○		○
6-K. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C2 > C3,C4,C6 C5 > C3,C4,C6 C7 > C4,C6	○	○			○		
6-L. キャリアデザイン関係の 科目	p<.01	C1 > C4 C2 > C1,C3,C4,C6,C7 C5 > C3,C4,C6,C7		○			○		
6-M. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	p<.01	C1 > C2,C3,C4,C6 C2 > C3,C4 C5 > C2,C3,C4,C6 C7 > C3,C4,C6	○				○		
6-N. A~M 以外の学習	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C2 > C3,C4,C6 C5 > C3,C4,C6 C7 > C1,C2,C3,C4,C5,C6		○			○		○
6-O. A~Nの学習以外の読書	p<.01	C1 > C2,C3,C4,C6 C2 > C4 C5 > C2,C3,C4,C6 C7 > C2,C3,C4,C6	○				○		○
6-P. 新聞(インターネット上 での紙面を含む)を読む	p<.01	C1 > C3,C4,C6 C2 > C4 C5 > C1,C3,C4,C6 C7 > C3,C4,C6	○				○		○
11-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	p<.01	C2 > C1,C4 C3 > C1,C2,C4,C5 C5 > C1,C4 C6 > C1,C2,C4,C5,C7 C7 > C1,C2,C4,C5			○			○	○
11-B. サークル活動	p<.01	C1 > C3,C6,C7 C2 > C1,C3,C6,C7 C4 > C1,C3,C6,C7 C5 > C1,C3,C6,C7	○	○		○	○		
11-C. ボランティア活動	p<.01	C5 > C1,C2,C3,C4,C6,C7					○		
11-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	p<.01	C2 > C1,C3,C4,C5,C6,C7 C5 > C1,C3,C4,C6,C7 C7 > C1,C4,C6		○			○		○
11-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	p<.01	C2 > C1,C3,C4,C5,C6,C7 C5 > C1,C3,C4,C6,C7		○			○		
11-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	p<.01	C1 > C3,C7 C2 > C3 C4 > C3 C5 > C2,C3,C7 C6 > C1,C2,C3,C4,C7 C7 > C3					○	○	

※1 Welchの補正による ※2 Games-Howellの方法による

表3 各クラスタの特徴

クラスタ	概要	個別グラフ
クラスタ 1 (77名)	<p>【専門外や大学外の学習に熱心】 他学科や資格課程、大学外の資格、読書、新聞を読むなど、専門外や大学外での学習に特に意欲的だった卒業生。課外活動ではサークル活動に意欲的。アルバイトも就職を希望する業界に関連しないものの経験率が高い。</p>	
クラスタ 2 (55名)	<p>【キャリア志向】 資格課程、キャリアデザイン系の科目、その他の学習に意欲的。課外活動はサークル活動、大学外では就職を希望する業界に関連するアルバイトやインターンシップに特徴的に取り組んだ、キャリア志向だったと思われる卒業生。</p>	
クラスタ 3 (62名)	<p>【部活専心】 他のクラスタと比較して特に意欲的だったのは部活動のみであった卒業生。</p>	
クラスタ 4 (81名)	<p>【サークル専心】 他のクラスタと比較して特に意欲的だったのはサークル活動のみであった卒業生。アルバイトも就職を希望する業界に関連しないものの経験率が高い。</p>	
クラスタ 5 (65名)	<p>【さまざまな分野に意欲的】 自学科の専門科目と部活動以外のすべての項目において、特に意欲的に取り組んだと回答した卒業生。どの活動でも経験率が50%以上で、多種の活動に参加していたことがうかがえる。</p>	
クラスタ 6 (100名)	<p>【部活とアルバイトの両立】 部活動に特に意欲的に関わりながらも、さらに就職を希望する業界とは関連しないアルバイトにも意欲的に取り組んでいた卒業生。</p>	
クラスタ 7 (63名)	<p>【授業と自主学習、部活、アルバイト】 基礎教養科目や自学科・他学科の専門科目と、授業や資格取得とは関連しない自主学習や読書に特に熱心だった卒業生。課外活動は部活動で、就職を希望する業界に関連するアルバイトにも取り組んだ。</p>	

2-2. 各クラスタの学修成果の実感と学生生活の満足度

表3にまとめたような特徴を有する各クラスタの卒業生が、学修実感や卒業後の学習、職業の満足度等において違いを示すかを検討するため、学修実感や卒業後の進路、現在の仕事に関する設問についてクラスタごとに検討した。

2-2-1. 大学卒業段階で身につけた知識・能力

「大学卒業段階で、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができたと思いますか。」という質問の各項目について、クラスタごとに、「身についた(4)」、「しっかりと身についた(5)」と付けた割合を表4にまとめた。表4においては、この割合が60%以上のセルを青くしてこれをよく学修されたと感じられている項目、40%以下のセルを赤くしてこれを学修できなかったと感じられている項目とした。

各クラスタにおける特徴は後述するが、クラスタに共通して学修実感のある項目は、「J. 情報を収集し、整理する力(全体で70.9%が学修実感を得た)」「M. 他者の話をしっかり聴く力(全体で71.1%が学修実感を得た)」の2項目である。これらの2点は、2011年・2012年卒業の本学学生が、在学中にどのような活動に取り組んでいたとしても、学修を実感できた能力であると考えられる。反対に、クラスタに共通して学修実感のなかった項目は、「D. 外国語の運用能力(全体で19.6%が学修実感を得た)」の1項目である。これは、2011年・2012年卒業の本学学生が、大学生活を通して学修を実感することが難しかった能力であると考えられる。

表4 各クラス内の卒業段階で身についたと感じた人数割合

	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	クラス6	クラス7	全体
16-A. 専門分野の知識	67.5%	61.1%	48.4%	46.9%	70.8%	55.0%	77.4%	60.3%
16-B. 専門分野以外の幅広い知識	39.0%	46.3%	29.0%	18.5%	55.4%	34.0%	61.3%	39.1%
16-C. 将来の職業に関連する知識や技能	32.5%	48.1%	24.2%	17.3%	47.7%	24.0%	38.7%	31.7%
16-D. 外国語の運用能力	22.1%	13.0%	16.1%	19.8%	26.2%	15.0%	25.8%	19.6%
16-E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解	33.8%	31.5%	19.4%	25.9%	55.4%	25.0%	50.0%	33.5%
16-F. 目標を立てて計画的に行動する力	59.7%	64.8%	48.4%	60.5%	66.2%	54.0%	64.5%	59.3%
16-G. 自分の考えを他者に文章で伝える力	57.1%	57.4%	43.5%	43.2%	72.3%	52.0%	64.5%	55.1%
16-H. 自分の考えを他者に口頭で伝える力	49.4%	64.8%	37.1%	49.4%	63.1%	49.0%	48.4%	51.1%
16-I. 常識にとらわれることなく批判的に考える力	48.1%	48.1%	30.6%	24.7%	56.9%	34.0%	56.5%	41.5%
16-J. 情報を収集し、整理する力	72.7%	75.9%	61.3%	67.9%	84.6%	63.0%	75.8%	70.9%
16-K. 現状を分析し、課題を明らかにする力	57.1%	74.1%	58.1%	49.4%	78.1%	54.5%	66.1%	61.1%
16-L. 発見した課題の解決策を提示する力	40.3%	61.1%	46.8%	43.2%	70.8%	48.0%	53.2%	50.9%
16-M. 他者の話をしっかり聴く力	74.0%	68.5%	61.3%	66.7%	86.2%	72.0%	67.7%	71.1%
16-N. 他者と協力してものごとを進める力	62.3%	72.2%	60.7%	67.9%	84.6%	69.0%	56.5%	67.6%
16-O. 目標に向かって集団や組織を動かす力	45.5%	64.8%	45.2%	51.3%	66.2%	59.0%	37.1%	52.8%
16-P. 自分の適性や能力を把握する力	62.3%	63.0%	56.5%	55.6%	73.8%	55.0%	56.5%	59.9%
16-Q. 広い視野から人間を探究する力	53.2%	63.0%	41.9%	46.9%	68.8%	49.0%	56.5%	53.4%

2-2-2. 大学生生活の満足度

「あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。あてはまるものを1つ選んでください。」という設問の各項目について、クラスタごとに「やや満足している（3）」、「とても満足している（4）」と回答した人数の割合を表5にまとめた。

クラスタ3における「B. 教員との人間関係」以外は、すべて60%を超える高い評価であると言える。表5においては、この割合が90%を超えているセルを特に満足度が高い項目として濃い青で、80%を超え90%以下のセルを薄い青で示した。項目として、80%未満のセルが多い順に、「B. 教員との人間関係」（クラスタ1・2・3・4・6）、「D. 課外活動」（クラスタ1・2・7）「A. 大学の授業の内容・水準」（クラスタ3）であった。

表5 各クラスタ内の大学生生活の満足度で3または4を付けた人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
17-A. 大学の授業の内容・水準	92.2%	85.2%	72.6%	88.8%	93.8%	88.0%	92.1%
17-B. 教員との人間関係	79.2%	64.8%	59.7%	67.5%	81.5%	74.0%	82.5%
17-C. 友人との人間関係	87.0%	88.9%	90.3%	90.0%	95.4%	93.0%	84.1%
17-D. 課外活動(部・サークル活動含む)	61.0%	77.8%	83.9%	80.0%	92.3%	94.0%	74.6%
17-E. 大学での生活全般	92.2%	87.0%	91.9%	86.3%	95.4%	95.0%	90.5%

2-2-3. クラスタと学修実感・満足度の関係

7つのクラスタのうち、学修実感が高かったと見受けられるのは、クラスタ2やクラスタ5の卒業生であった。これらの【キャリア志向】(クラスタ2)や【さまざまな分野に意欲的】(クラスタ5)と表現したクラスタでは、共通することとして、資格課程やキャリアデザイン系の科目、大学の授業以外の学習、就職を希望する業界のアルバイトやインターンシップに意欲的に取り組んでいたことが挙げられる。学修実感で尋ねた項目は、社会人として必要と考えられる能力も多いため、キャリア関連の取り組みが共通するこれらのクラスタの卒業生が卒業時点で身につけていたと実感できていたことはいずれも同様である。しかし、学生生活の満足度では、クラスタ2の卒業生はクラスタ5の卒業生に比較して満足を感じていなかったようである。クラスタの特徴から考えると、クラスタ5の卒業生はいくつかの授業科目でもクラスタ2よりも有意に高く意欲的に取り組んでいたため、授業に関しても意欲的に取り組むことで、学生生活の満足度が全般に高くなったといえるかもしれない。

クラスタ3とクラスタ6は特に部活動に意欲的であった卒業生として共通しており、これも学修実感としては同様の傾向であった。上述のクラスタ2やクラスタ5よりは、学修実感に乏しいといえる。学生生活の満足度を見てみると、比較的クラスタ6のほうが満足を感じているようにうかがえる。クラスタ3とクラスタ6の大きな違いはアルバイトを行っていたか否かである。このことから、一つの可能性として、大学外でアルバイトに取り組むことで大学から離れる時間を持ち、大学内の環境や人間関係を他

と相対的に評価する視点が持てるなどの影響で大学生活の満足度が高かったと考えられるかもしれない。

クラスタ1とクラスタ4は、課外活動が主にサークルであることが共通している。学修実感の傾向は概ね共通しているものの、クラスタ1では「自分の適性や能力を把握する力」、クラスタ4では「目標を立てて計画的に行動する力」に対してそれぞれ学修実感を得ていることがうかがえる。クラスタ1とクラスタ4の違いとして、クラスタ1はサークル活動に加えて大学内外の資格やその他の学習に意欲的であったという点が挙げられる。クラスタ1では、資格に関する勉強や自学科の専門以外の勉強に広く取り組む上で、何ができて何ができないかや自身の志向がどんなことに向いているかなどを考える機会が多かったのかもしれない。満足度では、クラスタ1は大学授業関連や生活全般、クラスタ4では課外活動や友人関係に満足している割合が高く、クラスタ1は学習面、クラスタ4は課外活動というように、それぞれの特徴が反映されていると思われる。

クラスタ7は、授業関連の大学での学習とその他の自主学習に意欲が高く、課外活動は部活動、と真面目な学生時代をイメージさせる卒業生である。彼らに特徴的なことは、「専門分野以外の知識」「目標を立てて計画的に行動する力」「自分の考えを文章で伝える力」、といった自学自習により身につく学修実感を高く持っていることと、反対に「目標に向かって集団を動かす力」ではあまり学修実感が得られていないことである。このクラスタの特徴からは、一人で真面目に学んできたことがイメージされ、そのことが影響しているように見受けられる。

2-3. 各クラスターの大学卒業後の状況

2-3-1. 大学卒業後の進路

各クラスターの卒業後の進路について、表6にまとめた。この表について、正社員、常勤の公務員や教員、大学院進学に絞ってみても、大きな偏りは見られなかった。従って、大学時代の活動のタイプによって、卒業後の進路が限定されてしまうといったことはうかがえない。

各クラスター内に占める割合として、正社員の率が最も高かったのはクラスター2（81.5%）であった。常勤の公務員等への就職について、クラスター6（14.1%）、クラスター5（13.8%）、クラスター7（11.3%）で10%を超えており、大学院へ進学に関してクラスター7（14.5%）とクラスター5（10.8%）で10%を超えており、若干の偏りが見受けられた。

表6 クラスター別の卒業後の進路

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7
正社員	53	44	44	55	41	69	33
公務員・団体職員・教員 (常勤)	6	4	6	7	9	14	7
派遣社員・契約社員	6	1	0	6	0	2	4
公務員・団体職員・教員 (非常勤)	0	1	3	3	3	1	1
パート・アルバイト	3	2	0	3	4	3	2
専門学校進学	3	0	0	1	1	1	3
大学院進学	3	2	6	5	7	7	9
専業主婦・夫	1	0	0	0	0	0	0
就職活動	0	0	2	0	0	2	0
特に何もしていない	0	0	1	0	0	0	1
その他	2	0	0	0	0	0	2
合計	77	54	62	80	65	99	62

2-3-2. 卒業後5年間の仕事との関わり

卒業後5年が経過した時点での仕事に関する設問についてまとめる。ここではまず「あなたは、大学卒業後、仕事とおおよそどのような関わり方をしてきましたか。」という設問に対する回答人数を表7にまとめた。

各クラスタ内に占める割合として、「1. 卒業後、就職し、現在まで同じ会社（官庁・学校等含む）で働き続けている」が最も多かったのはクラスタ6（69.7%）、最も少なかったのはクラスタ5（56.9%）であった。

表7 クラスタ別の卒業後5年間の仕事との関わり

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
21-1. 卒業後、就職し、現在まで同じ会社（官庁・学校等含む）で働き続けている	44	35	42	48	37	69	38
21-2. 卒業後、就職し、転職もしたが、ほぼ継続して働き続けている	16	13	13	20	17	22	14
21-3. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職したが、現在は働いている	3	2	0	2	4	2	0
21-4. 卒業後、就職し、結婚・出産等を機に退職し、その後現在まで働いていない	7	1	3	5	2	1	2
21-5. 卒業後、全く仕事をしていない	1	0	1	0	1	1	1
21-6. その他	6	3	3	5	4	4	7
合計	77	54	62	80	65	99	62

次に、卒業後5年経過時点（本アンケート回答時）での状況（表8）と、卒業直後の職業との人数差（表9、計算方法は表8－表7）を示す。

卒業直後の進路としてはどのクラスタにも存在しなかった「自営業・家族従事者」が、卒業後5年経過時点には全体で7名となった。また、正社員的人数はどのクラスタでも減少し、逆に常勤の公務員や教員的人数は増加した。大学院の人数もすべてのクラスタで減少し、多くは5年の間に修了した卒業生であると思われる。卒業直後は大学院へ進学しなかったが、5年経過時点で大学院生である卒業生は3名で、内訳は、クラスタ5で1名、クラスタ7に2名であった。

表8 クラスタ別の卒業後5年経過時点の状況

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
正社員	48	37	41	50	39	64	30
公務員・団体職員・教員 (常勤)	11	10	8	13	12	19	15
派遣社員・契約社員	3	1	2	3	3	6	6
公務員・団体職員・教員 (非常勤)	1	0	2	3	2	3	2
自営業・家族従事者	0	1	1	0	2	2	1
パート・アルバイト	3	3	0	2	0	1	0
専門学校進学	1	0	1	0	0	0	0
大学院進学	0	1	1	0	2	2	5
専業主婦・夫	9	1	2	4	3	1	2
就職活動	0	0	3	2	0	0	0
特に何もしていない	0	0	0	2	0	0	0
その他	1	0	1	1	2	1	1
合計	77	54	62	80	65	99	62

表9 各クラスターの卒業直後と卒業後5年経過時点の状況の人数差

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7
正社員	-5	-7	-3	-5	-2	-5	-3
公務員・団体職員・教員 (常勤)	5	6	2	6	3	5	8
派遣社員・契約社員	-3	0	2	-3	3	4	2
公務員・団体職員・教員 (非常勤)	1	-1	-1	0	-1	2	1
自営業・家族従事者	0	1	1	0	2	2	1
パート・アルバイト	0	1	0	-1	-4	-2	-2
専門学校進学	-2	0	1	-1	-1	-1	-3
大学院進学	-3	-1	-5	-5	-5	-5	-4
専業主婦・夫	8	1	2	4	3	1	2
就職活動	0	0	1	2	0	-2	0
特に何もしていない	0	0	-1	2	0	0	-1
その他	-1	0	1	1	2	1	-1
合計	0	0	0	0	0	0	0

2-3-3. 大学時代の学びへの振り返り

「大学時代の学びや経験は、あなたの現在の仕事にどのくらい役に立っていると思いますか。」という設問に対して、「やや役立っている（3）」、「とても役立っている（4）」と回答した人数の各クラスタ内の割合を表10に示す。

これをみると、特に部活動を経験していたクラスタ3・5・6・7では、60%以上が課外活動の経験が役立っていると回答しており、クラスタ6では80%を超える結果となった。また、情報（処理）科目も全クラスタで50%超、クラスタ5では60%を超えており、卒業後に比較的役に立っているという実感が得られる科目であることがうかがえる。

表10 各クラスタ内の現在への仕事へ役立っていると感じる人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7	全体
23-A. 人文科学系の総合基礎科目・基礎教養科目	38.4%	27.8%	16.1%	17.5%	41.5%	25.3%	37.7%	28.7%
23-B. 社会科学系の総合基礎科目・基礎教養科目	35.6%	38.9%	22.6%	16.3%	41.5%	22.2%	36.7%	29.4%
23-C. 自然科学系の総合基礎科目・基礎教養科目	18.1%	13.2%	9.7%	13.8%	21.5%	11.1%	15.0%	14.5%
23-D. 外国語科目	34.7%	24.1%	21.0%	23.8%	49.2%	28.6%	36.1%	30.9%
23-E. 情報（処理）科目	54.2%	50.0%	40.3%	52.5%	63.1%	54.5%	53.2%	52.8%
23-F. スポーツ・健康科学科目	8.5%	9.3%	11.3%	13.9%	21.5%	13.1%	11.5%	12.8%
23-G. 自学科の専門科目（講義）	49.3%	42.6%	25.8%	35.0%	58.5%	45.9%	48.4%	43.7%
23-H. 自学科の専門科目（演習）	49.3%	46.3%	21.0%	31.3%	55.4%	46.5%	43.5%	42.0%
23-I. 自学科の専門科目（実験・実習）	35.2%	35.8%	6.5%	25.0%	49.2%	31.3%	25.8%	29.9%
23-J. 他学科の専門科目（講義・演習）	28.2%	13.0%	4.8%	8.8%	40.0%	12.1%	41.9%	20.5%
23-K. 資格課程の科目（講義・演習・実習）	33.8%	33.3%	14.5%	12.5%	35.4%	20.2%	30.6%	24.9%
23-L. キャリアデザイン関係の科目	9.9%	18.5%	8.1%	5.0%	29.2%	11.1%	6.5%	12.2%
23-M. 課外活動（部・サークル活動含む）の経験	50.7%	53.7%	61.3%	55.0%	69.2%	80.8%	62.9%	63.1%

「大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありますか。」という設問に対して、「ややそう思う（3）」、「とてもそう思う（4）」と回答した人数の各クラス内の割合を表11に示す。

すべてのクラスで「外国語」が70%を超え、その他「留学・海外研修」「情報（処理）」「資格課程の科目」などが、大学時代にもっと経験しておけばよかったと感じられていることが分かる。

表11 各クラスの学習や経験をもっとしておけばよかったと感じる人数割合

	クラス1	クラス2	クラス3	クラス4	クラス5	クラス6	クラス7	全体
24-A. 人文科学系の総合基礎科目・基礎教養科目の学習	46.7%	33.3%	43.5%	42.5%	56.3%	50.5%	48.4%	46.4%
24-B. 社会科学系の総合基礎科目・基礎教養科目の学習	49.3%	53.7%	48.4%	47.5%	56.3%	59.2%	51.6%	52.5%
24-C. 自然科学系の総合基礎科目・基礎教養科目の学習	42.5%	31.5%	39.3%	42.5%	45.3%	46.4%	33.3%	40.9%
24-D. 外国語	77.3%	75.9%	72.6%	72.5%	80.0%	84.7%	75.8%	77.4%
24-E. 情報（処理）	72.0%	70.4%	62.9%	67.5%	69.2%	72.4%	54.8%	67.5%
24-F. スポーツ・健康科学	25.7%	22.2%	25.8%	26.3%	41.5%	30.9%	27.4%	28.7%
24-G. 自学科の専門科目（講義）	62.7%	55.6%	54.8%	60.0%	60.0%	65.3%	54.8%	59.7%
24-H. 自学科の専門科目（演習）	65.3%	59.3%	54.8%	60.0%	61.5%	61.2%	54.8%	59.9%
24-I. 自学科の専門科目（実験・実習）	56.0%	51.9%	41.0%	56.3%	60.9%	52.0%	39.3%	51.5%
24-J. 他学科の専門科目（講義・演習）	56.0%	35.8%	30.6%	45.0%	58.5%	46.9%	58.1%	47.7%
24-K. 資格課程の科目（講義・演習・実習）	69.3%	64.8%	56.5%	60.0%	64.1%	71.4%	51.6%	63.2%
24-L. キャリアデザイン関係の学習	52.0%	51.9%	38.7%	45.0%	60.0%	46.4%	35.5%	47.1%
24-M. 課外活動（部・サークル活動含む）の経験	58.7%	63.0%	48.4%	60.0%	67.7%	57.1%	45.2%	57.3%
24-N. アルバイト	57.3%	50.0%	54.8%	50.0%	61.5%	46.9%	32.3%	50.4%
24-O. インターンシップ	51.4%	66.7%	37.1%	48.8%	60.0%	45.9%	32.3%	48.5%
24-P. 留学・海外研修	62.7%	74.1%	53.2%	68.8%	75.4%	68.4%	60.7%	66.3%

2-3-4. 卒業後の学習活動

「あなたは、現在の仕事や将来のキャリアのために、以下のような活動を1週間あたり平均でどのくらい行っていますか。」という設問に対して、「していない(1)」以外に回答した卒業生(最低でも1週間あたり1～2時間は該当する学習活動を行っていると考えた卒業生)の各クラスタ内の割合を表12に示す。

活動の割合は全体的に高くなく、クラスタ2における「職場での勉強会や研修会への参加」以外で、活動率が50%を超える項目はなかった。

表12 各クラスタ内の卒業後の学習活動の人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
22-A. 職場での勉強会・研修会	47.4%	61.1%	48.4%	40.0%	47.7%	40.8%	40.3%
22-B. 職場以外での勉強会・研修会	46.1%	29.6%	25.8%	18.8%	38.5%	25.5%	30.6%
22-C. 外国語の学習	31.6%	22.2%	22.6%	26.3%	43.1%	25.5%	38.7%
22-D. 資格取得のための学習	47.4%	48.1%	30.6%	42.5%	43.1%	34.7%	35.5%
22-E. A～D以外の学習	31.6%	33.3%	23.0%	25.3%	46.2%	33.3%	46.8%

2-3-5. 卒業後5年経過時点の仕事満足度と身につけている能力

「あなたは、現在の仕事についてどの程度満足していますか。」の設問に対し、「やや満足している(3)」、「とても満足している(4)」と回答した卒業生の各クラスタ内の割合を表13に示す。

クラスタ2では「C. 上司との人間関係」以外で80.0%を超えており、現在の仕事に満足している卒業生が多いことがうかがえる。クラスタによる差が最も大きい項目は「B. 処遇(給与や昇進など)」で、クラスタ4で58.8%、クラスタ2で81.5%と、クラスタ間で満足している割合に開きがあった。

表13 各クラスタ内の卒業後5年経過時点の満足している人数割合

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7
25-A. 仕事の内容	73.0%	83.3%	77.4%	72.5%	78.5%	71.7%	85.2%
25-B. 処遇 (給与や昇進など)	60.8%	81.5%	71.0%	58.8%	63.1%	64.6%	72.1%
25-C. 上司との人間関係	74.3%	75.9%	72.6%	77.5%	73.8%	77.8%	72.1%
25-D. 同僚・後輩との 人間関係	81.1%	87.0%	77.4%	82.5%	80.0%	79.6%	82.0%

表 14 に、「現在、あなたは、以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけていると思いますか。」に対し、「身につけている（４）」、「しっかり身につけている（５）」と回答した卒業生の各クラスタ内の割合を示す。

表 14 各クラスタ内の卒業後 5 年経過時点で身についたと感じる人数割合

	クラスタ 1	クラスタ 2	クラスタ 3	クラスタ 4	クラスタ 5	クラスタ 6	クラスタ 7	全体
26-A. 大学で専攻した分野の知識	49.3%	51.9%	30.6%	26.3%	53.8%	33.7%	60.3%	42.5%
26-B. 大学で専攻した分野以外の幅広い知識	34.7%	37.0%	22.6%	25.0%	50.8%	32.0%	47.6%	35.1%
26-C. 現在の職業に関連する知識や技能	62.2%	63.0%	54.8%	56.3%	64.6%	59.2%	63.5%	60.3%
26-D. 外国語の運用能力	18.7%	14.8%	16.1%	22.5%	35.4%	10.2%	17.7%	19.0%
26-E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解	38.7%	31.5%	19.4%	30.0%	56.3%	36.7%	49.2%	37.3%
26-F. 目標を立てて計画的に行動する力	73.3%	77.8%	58.1%	63.8%	78.5%	65.3%	68.3%	68.8%
26-G. 自分の考えを他者に文章で伝える力	70.7%	75.9%	45.9%	70.0%	76.9%	68.4%	79.4%	69.6%
26-H. 自分の考えを他者に口頭で伝える力	60.0%	72.2%	51.6%	66.3%	76.9%	68.4%	58.7%	65.0%
26-I. 常識にとらわれることなく批判的に考える力	54.7%	57.4%	40.3%	48.8%	75.4%	51.0%	67.7%	55.8%
26-J. 情報を収集し、整理する力	78.7%	81.5%	58.1%	68.8%	87.7%	78.6%	84.1%	76.7%
26-K. 現状を分析し、課題を明らかにする力	66.7%	75.9%	58.1%	61.3%	81.5%	72.4%	72.6%	69.6%
26-L. 発見した課題の解決策を提示する力	54.7%	66.7%	53.2%	53.8%	81.5%	60.2%	65.1%	61.6%
26-M. 他者の話をしっかり聴く力	88.0%	83.3%	72.6%	78.8%	86.2%	81.6%	84.1%	82.1%
26-N. 他者と協力してものごとを進める力	74.7%	81.5%	64.5%	68.8%	83.1%	70.4%	69.8%	72.8%
26-O. 目標に向かって集団や組織を動かす力	44.0%	63.0%	46.8%	41.3%	63.1%	57.1%	39.7%	50.5%
26-P. 自分の適性や能力を把握する力	68.0%	70.4%	58.1%	71.3%	80.0%	64.9%	68.3%	68.5%
26-Q. 広い視野から人間を探究する力	60.0%	70.4%	56.5%	61.3%	81.5%	58.2%	60.3%	63.4%

表 14 における各項目は、大学卒業段階で身についたと感じる知識や能力の項目（表 4）と同様のため、卒業後の 5 年間に身につけた能力を見るために、表 15 と表 4 の各クラスタに占める人数割合の差を検討した（表 15）。

表 15 各クラスタの大学卒業時点と卒業後 5 年経過時点の身につけている実感の差

	クラスタ1	クラスタ2	クラスタ3	クラスタ4	クラスタ5	クラスタ6	クラスタ7	全体
A. 専門分野の知識	-18.2%	-9.3%	-17.7%	-20.7%	-16.9%	-21.3%	-17.1%	-17.8%
B. 専門分野以外の幅広い知識	-4.3%	-9.3%	-6.5%	6.5%	-4.6%	-2.0%	-13.7%	-4.0%
C. 職業に関連する知識や技能	29.7%	14.8%	30.6%	39.0%	16.9%	35.2%	24.8%	28.5%
D. 外国語の運用能力	-3.4%	1.9%	0.0%	2.7%	9.2%	-4.8%	-8.1%	-0.6%
E. 異文化や異文化圏の人々に 関する知識・理解	4.9%	0.0%	0.0%	4.1%	0.9%	11.7%	-0.8%	3.8%
F. 目標を立てて計画的に 行動する力	13.6%	13.0%	9.7%	3.3%	12.3%	11.3%	3.7%	9.5%
G. 自分の考えを他者に文章 で伝える力	13.5%	18.5%	2.4%	26.8%	4.6%	16.4%	14.8%	14.5%
H. 自分の考えを他者に口頭 で伝える力	10.6%	7.4%	14.5%	16.9%	13.8%	19.4%	10.3%	13.9%
I. 常識にとらわれることなく 批判的に考える力	6.6%	9.3%	9.7%	24.1%	18.5%	17.0%	11.3%	14.3%
J. 情報を収集し、整理する力	5.9%	5.6%	-3.2%	0.8%	3.1%	15.6%	8.3%	5.8%
K. 現状を分析し、課題を 明らかにする力	9.5%	1.9%	0.0%	11.9%	3.4%	17.9%	6.5%	8.4%
L. 発見した課題の解決策を 提示する力	14.4%	5.6%	6.5%	10.5%	10.8%	12.2%	11.9%	10.7%
M. 他者の話をしっかり聴く力	14.0%	14.8%	11.3%	12.1%	0.0%	9.6%	16.4%	11.0%
N. 他者と協力してものごとを 進める力	12.3%	9.3%	3.9%	0.8%	-1.5%	1.4%	13.4%	5.2%
O. 目標に向かって集団や 組織を動かす力	-1.5%	-1.9%	1.6%	-10.0%	-3.1%	-1.9%	2.6%	-2.3%
P. 自分の適性や能力を 把握する力	5.7%	7.4%	1.6%	15.7%	6.2%	9.9%	11.8%	8.7%
Q. 広い視野から人間を 探究する力	6.8%	7.4%	14.5%	14.3%	12.8%	9.2%	3.9%	10.0%

「A. 専門分野の知識」や「B. 専門分野以外の幅広い知識」は、ほぼすべてのクラスタで下降しているため、多くの卒業生は大学時代に専門分野として学んだことやその他で学んだこととは異なる分野で働いていると思われる。このことと、卒業後 5 年経過時点での「C. 現在（=将来）の職業に関連する知識や技能」の学修実感が高く（表 14）、割合の増加も大きい（表 15）ことを勘案すると、卒業後の学習内容は仕事にかかわることに集中しており、かつ内容は大学時代の学びとはあまり関わりがないことを示

唆している。クラスタ2やクラスタ5では他のクラスタに比べて同項目の割合の伸びが小さいが、クラスタ2やクラスタ5の卒業生は、3-2-3に前述したとおり、在学中から既にキャリア関連の学びに意欲的であったためだと思われる。

「A.」や「B.」に関して、クラスタ2では下降した割合が比較的小さく、クラスタ7では、大学時代の専門分野の知識は下降したといえども60%を超えている。これらの点について、クラスタ2の卒業生はキャリア関連の学びに特に意欲的に取り組んでいたこと、クラスタ7の卒業生は卒業段階で大学での専門分野の知識を特によく身につけていたことから、それぞれ大学時代に学んだ内容に近い職業につく結果となっていることが想像される。また、本調査では卒業後の仕事について雇用形態を尋ねているため、卒業生の仕事の質を見ることができないが、例えばクラスタ7では卒業後大学院へ進学した卒業生が比較的多く含まれていたことから、そのような卒業生は、卒業後5年経過時点では自らの専門性を活かした仕事に就いているのではないかと思われる。

「D. 外国語の運用能力」に関しては、学修実感があまりなくまた変動も少ないので、外国語に関する学習機会は卒業後も少なかったことが見て取れる。「E. 異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解」もあまり大幅な割合の増加は見られない。

「F.」～「Q.」の各項目に関しては、「O.」以外は増加傾向であり、特にクラスタ6やクラスタ4では割合の伸びが大きいものが多い。クラスタ6とクラスタ4に共通して伸びが大きいものは、「G.」や「H.」、「I.」であり、自らの思考とその表現に関するものであることがわかる。「G.」についてはクラスタ2、「I.」についてはクラスタ5でも割合の伸びが大きい。クラスタ7では「M.」の伸びが特に大きい。これらは、クラスタ3以外のすべてのクラスタで、卒業段階から卒業後5年経過時点にかけて人数割合が60%を超える項目がかなり増加しているため、大学時代に十分に身につけきれなかったが社会人経験の中で身につけてきた能力とみてよいと考えられる。60%以上のクラスタが少ない項目として、「I.」と「O.」が挙げられるが、双方、卒業後5年までの間では、職場やその他で求められることがあまりなかった項目であることが考えられる。

■分析方法の詳細

① 卒業生の類型化のための項目

卒業生調査において、大学内外の学習や活動にどの程度意欲的に取り組んだかを問う以下2つの設問への回答(16+6項目)をデータとして、非階層的クラスタ分析を行った。これらの項目では、卒業生が経験しなかった場合の回答値は0であるが、分析にあたって経験の有無も重要な情報となるため、回答値をそのまま用いた。

- ・あなたは、大学在学中、大学の授業やそのほかの学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(項目計16項目、経験しなかった(0)、まったく意欲的でなかった(1)～とても意欲的だった(4))

ただし、「A.人文科学系の総合基礎科目・基礎教養科目」、「B.社会科学系の総合基礎科目・基礎教養科目」、「C.自然科学系の総合基礎科目・基礎教養科目」は、3項目の平均を「基礎教養科目」の得点としてまとめた。また、「H.自学科の専門科目(演習)」と「I.自学科の専門科目(実験・実習)」は、所属学科のカリキュラムによって科目が存在しない場合があるため、(1)～(4)を付けた項目についての平均を、「自学科の専門科目(演習・実験・実習)」の得点とした。(したがって、(H、I)で、(4, 3)と答えた場合の得点は「3.5」、(3, 0)と答えた場合の得点は「3.0」となる。)

- ・あなたは、大学在学中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(項目計6項目、経験しなかった(0)、まったく意欲的でなかった(1)～とても意欲的だった(4))

上記の計19項目について項目間の相関係数を算出したところ、絶対値で0.2を超えるものは13.9%であったため、これ以上の項目の集約は行わず、19項目によって類型化を行うこととした。

② 類型化の方法

①で記した19項目を用いて、非階層的クラスタ分析(K-means法による)を行った。クラスタ数を決定するため、3～8つのクラスタ数で分析を試行し、それぞれの群の特徴を対象の19項目と学修成果の実感値等から検討した結果、7クラスタにおいて、群の明確な特徴が見られたと判断した。(各クラスタの、19項目の平均値と標準偏差は章末の付録表1を参照)

また、各クラスタの特徴を検討するための平均値の比較(表2)は、クラスタ分析に用いた19項目を従属変数、クラスタを独立変数とした分散分析(Welchの補正による)と、多重比較(Games-Howellの方法による)を行ったものである。各クラスタの特徴を検討する際には、この多重比較の結果で他の3つのクラスタよりも有意に高く意欲的に取り組んでいたクラスタを、各項目について特に意欲的に取り組んでいたクラスタと捉えることとした。

③ 学生時代の学修実感・満足度、卒業後の進路等の設問

②で確定した類型を用いて、学生時代の学修実感や満足度と、卒業後の進路や仕事とのかかわり方、仕事への満足度などの設問への回答を類型ごとにまとめて類型との関連を探った。使用した設問は、Q16、Q17、Q18、Q19、Q21、Q22、Q23、Q24、Q25、Q26である。

付録 表1 各クラスターの意欲的な取り組みの平均値と標準偏差

	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4	クラスター5	クラスター6	クラスター7
6-A～C.基礎教養科目	2.03 (0.99)	2.00 (1.10)	1.80 (0.76)	1.70 (1.03)	2.52 (0.77)	1.75 (0.98)	2.46 (0.91)
6-D. 外国語科目	2.53 (1.12)	2.47 (1.00)	2.32 (0.95)	2.60 (1.00)	3.06 (0.85)	2.30 (1.03)	2.84 (0.97)
6-E. 情報(処理)科目	2.14 (0.85)	2.15 (0.83)	2.06 (0.96)	2.27 (0.94)	2.46 (0.79)	2.28 (0.87)	2.35 (0.79)
6-F. スポーツ・健康科学科目	1.35 (1.12)	1.49 (1.25)	1.79 (1.43)	2.22 (1.41)	2.46 (1.00)	1.90 (1.32)	2.03 (1.22)
6-G. 自学科の専門科目 (講義)	3.03 (0.89)	3.20 (0.78)	2.85 (0.92)	2.94 (0.76)	3.23 (0.79)	2.90 (0.87)	3.48 (0.78)
6-H～I. 自学科の専門科目 (演習・実験・実習)	3.00 (0.85)	3.15 (0.78)	2.77 (0.89)	2.94 (0.85)	3.26 (0.77)	2.96 (0.77)	3.48 (0.65)
6-J. 他学科の専門科目 (講義・演習)	2.32 (1.09)	1.76 (1.23)	1.31 (1.14)	1.49 (1.33)	2.58 (0.93)	1.46 (1.26)	2.92 (1.08)
6-K. 資格課程の科目 (講義・演習・実習)	2.10 (1.49)	2.09 (1.31)	1.29 (1.49)	1.02 (1.35)	2.08 (1.36)	0.97 (1.27)	2.06 (1.60)
6-L. キャリアデザイン関係の 科目	1.25 (1.16)	2.09 (1.38)	0.90 (1.14)	0.65 (1.01)	1.78 (1.28)	0.77 (1.09)	1.08 (1.18)
6-M. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	2.38 (1.14)	1.49 (1.45)	0.44 (0.88)	0.63 (1.16)	2.28 (1.33)	0.82 (1.25)	1.89 (1.48)
6-N. A～M以外の学習	1.83 (1.16)	1.47 (1.37)	0.48 (0.86)	0.40 (0.74)	2.12 (1.18)	0.78 (1.12)	2.76 (0.96)
6-O. A～Nの学習以外の読書	2.78 (0.98)	1.65 (1.19)	1.16 (1.19)	1.04 (1.15)	2.63 (1.02)	1.51 (1.31)	2.97 (0.74)
6-P. 新聞(インターネット上での 紙面を含む)を読む	2.26 (0.99)	2.25 (1.14)	1.61 (1.18)	1.37 (1.08)	2.80 (0.79)	1.76 (1.22)	2.57 (0.96)
11-A. 部活動 (部・同好会・愛好会)	0.19 (0.61)	1.25 (1.72)	3.31 (1.28)	0.10 (0.49)	1.69 (1.72)	3.65 (0.63)	2.83 (1.45)
11-B. サークル活動	1.75 (1.51)	2.80 (1.37)	0.39 (1.15)	3.01 (1.35)	2.85 (1.20)	0.39 (1.00)	0.63 (1.27)
11-C. ボランティア活動	0.23 (0.69)	0.58 (1.03)	0.32 (0.99)	0.43 (1.07)	2.78 (0.96)	0.43 (1.05)	0.43 (0.96)
11-D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	0.38 (0.93)	2.98 (1.13)	0.94 (1.50)	0.33 (0.91)	2.02 (1.45)	0.38 (1.08)	1.10 (1.51)
11-E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	0.60 (1.21)	2.85 (1.31)	0.37 (0.98)	0.37 (0.87)	1.43 (1.56)	0.52 (1.18)	0.30 (0.84)
11-F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	2.65 (1.29)	1.98 (1.71)	0.15 (0.44)	2.78 (1.22)	2.91 (1.00)	3.27 (0.71)	1.48 (1.53)

※ ()内は標準偏差

第3章

計量テキスト分析を利用した自由記述回答の整理と概観

1. 整理の目的

卒業生調査では、Q27「あなたが本学での学びから得た知識や技能などは、大学卒業後、どのような形でいかされていますか。すでにお答えいただいたこと以外で、思いあたることがあればご自由にお書きください。」として、自由記述項目を設けている。本章では、この項目への回答から、本学での学びが卒業後にどのように活用されているかを検討することを目的とする。

2. 整理の方法

整理にあたっては、「テキスト型データを統計的に分析するためのソフトウェア」である KH Coder を使いながら、コメント1つ1つについてソフトウェアと人間による確認を両方行うことで、網羅性を担保しつつ意味内容の確認まで行った。(方法の詳細は、章末「自由記述回答内容の整理手順」を参照)

3. 結果

3-1. コーディングの実施と結果

全 176 件の自由記述について、頻出単語一覧(章末付録表 1)を基に、網羅的にコーディングを行うためのコーディング・ルール(表 1)を作成し、コーディングを実施した。

このコーディングの後、分析者によるコーディング結果の確認を行った。確認の結果、コーディング・ルールにある単語は含まれていたが、内容がコードの定義の意味に添わないと判断した場合はコーディングを外し、反対に単語は含まれなくてもコードの定義に合致する内容であった場合はコーディングを割り振った。また、並行して、各コードについて、ポジティブな(活用できている)内容か、ネガティブな(活用できていない)内容か、その他の意見や提案であるかについて、分析者が判断を行った(表 2)。

表1 コーディング・ルール

コード名	コードの定義	対象の単語
知識	専門、一般教養かを問わず、大学で得た知識に言及した内容	知識、教養、素養、専門、専攻、講義
理解・思考力	大学での活動中に学んだものごとの理解や整理、レポート等に表現することまでの能力に言及した内容	書き方、とらえ方、論理、思考、見方、方法
態度・姿勢	大学での活動中に学んだものごとに対する態度や姿勢、価値観に関することに言及した内容	柔軟性、価値観、積極性、心掛け、目標、姿勢、考え方
対人関係スキル	大学での活動中に学んだ他者とのコミュニケーションに関するスキルに言及した内容	コミュニケーション、関わり方、プレゼンテーション、プレゼン、発表、人前、協力、対人、協調
語学	言語に関わらず、大学で学んだ外国語に言及した内容	英語、フランス語、ドイツ語、語学、外国語
資格	在学中に取得した資格に関することに言及した内容	資格、簿記、学芸員、教員
人間関係	大学で得た人間関係に関する内容	人間関係、交友、繋がり、友人、仲間
経験	特に知識やスキル、能力等に言及せず、大学での経験そのものにのみ言及した内容を含む回答	経験
その他	(上記のコーディングにかからない内容について言及している場合、筆者がコーディングを行った)	-

表2 コーディングの最終結果

	知識	理解・思考力	態度・姿勢	対人関係スキル	語学	資格	人間関係	経験	その他
活用している	42	32	38	27	6	11	17	31	6
活用していない	17	0	0	0	1	1	0	4	1
その他(意見・提案)	1	1	1	2	7	2	0	1	15
合計	60	33	39	29	14	14	17	36	22

※上記のコードが何もつかなかった回答=7件

3-2. 各コードと活用のされ方について

2. に記述したように、コーディングの後、そのコードの内容について卒業後に活用されたか否かを個別に判断した。本節では各コード別に具体的にどのようなものが含まれているか、また活用のされ方についてみていく。

「知識」コード

「知識」コードは、専門分野や基礎教養等に関わらず在学中に学んだ知識について言及している 60 件（全体の 34.1%）の回答に割り振られた。卒業後に活かされている回答（42 件、「知識」コードの 70.0%）のうち、直接的に活かされている具体例としては、まず以下のように関係する職業についたためという回答が見受けられた。

「史学の知識・経験が直接関係する職種に就いたため、卒論執筆や歴史的知識をそのまま活かしています。」

また、知識は仕事上では直接活かされていなくとも、以下のように他者とのコミュニケーションをとる際の教養として活かされていることも見受けられた。このようなコメントは、卒業後の生活で活用している例とみなした。

「仕事で直接的な関わりや役立つ分野ではありませんでしたが、”知っている”ことで教養となり、お客様や同僚との会話に広がりが出たと思います。」

これと同様に、自分の人生の豊かさにつながっているというコメントが見受けられ、このようなコメントも卒業後の生活に活かされている例とみなした。

「現在の職種では特に役立つことはないが、大学で興味のある分野の知識を得たことが、現在の人生の豊かさに繋がっている。」

「知識」が卒業後に活用されていないというコメントは、17 件（「知識」コードの 28.3%）で見受けられた。具体的には、以下のような、端的に役立っていないことを述べるコメントや、他の能力等と比較すると「知識」は活かしていないことを示すコメントが見受けられた。

「ほぼ大学で身につけた知識が役立っていると感じたことはないです。」

「専門的な知識は特に仕事に役立ってはいませんが、広く人間関係や考え方の部分で大切な事を教えていただいたと感じています。」

最後に、「知識」に関する意見としては、以下のようにカリキュラムに関するコメントが見受けられた。

「法学部でも総合基礎科目をとれるようにすべき。在学中は専門を深めることが大事との考えかもしれないが、卒業してから専門外の教養は人間関係上役に立つと考えます。」

「理解・思考力」コード

「理解・思考力」コードは、ものごとに対する理解の仕方や、捉え方、また論理的な思考力に関する内容に言及している 33 件（全体の 18.8%）の回答に割り振られた。このうち、1 件を除く全回答が卒業

後に活かされているという内容と判断された。これらの回答は、以下の具体例のように、在学中の授業や課題、実験、研究、論文等に取り組む中で身についた理解力・思考力が、卒業後の仕事や生活において活かされているという内容であった。

「私は大学の専攻分野とはほとんど関係のない業界へ就職しましたが、在学中の実験、実験レポート、卒業研究等で培われた論理的思考（筋道を立てて物事を考える力）は、現在の仕事にも活かしていると思います。」

「哲学科においては論理的に物事を考え、授業や論文に臨んでいったため、職務においても論理的に業務を遂行するにあたり大変活かされていると考えます。」

以下のコメントは、「理解・思考力」コードに関わる能力を持つ人間が社会的に需要があることを実感したというコメントであったため、その他のコメントとして分類した。

「直接的には役立っていない。論理的思考の出来る人間が、どこでも需要があるということは実感している。」

「態度・姿勢」コード

「態度・姿勢」コードは、ものごとに対する態度や姿勢、また、価値観に関することに言及している39件（全体の22.2%）の回答に割り振られた。このうち、1件を除く全回答が卒業後に活かされているという内容と判断された。これらの回答は、以下のように在学中の授業や課外活動等での他者との関わりの中で求められて積極性などの姿勢が身についたり、多様な他者との関わりの中で価値観の多様性を知ることで理解し受け入れる態度が身についたりしたという内容であった。

「卒業学科とは全く異なる業種の仕事に就いています。しかしながら、大学の授業は少人数制で、常に自分の意見を発信すること、主張することを求められていましたので、そうした心掛けは今の仕事にも活かされていると思います。」

「日本語教育活動での人との関わりや、サークル活動での人との関わりで、色々な立場の人を受け入れ、お互い理解し合うことを学んだ。国籍や文化の違いはもちろん、生活環境や大学に通う目的などの違いがとても刺激になりました。また、これらの経験により、社会での理不尽な仕事や人間関係においても相手の立場になって受け入れる事ができています。」

以下のコメントは、プロ意識を持って社会に関わることの重要性を感じているというコメントであったため、その他に分類した。

「たとえ学士であっても、自分の専攻した分野のプロという意識をもって、社会に関わることはとても重要です。」

「対人関係スキル」コード

「対人関係スキル」コードは、他者とのコミュニケーションに関するスキル等に言及している29件（全体の16.5%）の回答に割り振られた。このコミュニケーションには、発表やプレゼンテーションに関する内容も含まれる。このうち2件を除く全回答は、学んだ内容が卒業後に活かされているという内容であった。これらの回答は、以下のようにゼミや課外活動等での他者との関わりの中で、人との関わり方

を学べたことで、卒業後に人間関係を築く際に活かしているという内容であった。

「日本語の学びから、人との関わり方・場の捉え方が言葉に影響することを学んだことは、実生活に深く結びつき、私の人間関係を築くなかでの大きなサポートになっています。」

「正直大学での学びの中でいかせてるものはないが、ゼミやサークル、アルバイトなどでの周りとの協力の仕方、社会との接し方での学びは大いに役立っています。」

また、以下のように、対人関係スキルについてあまり学習機会がなかったというコメントが2件あり、これらはその他（意見・提案）に含めることとした。

「技能については、グループで学習する機会があまりなかったので、仕事で他者（同僚、顧客）とのコミュニケーションについて実践をつみました。」

「学生時代の勉強は知識の吸収に偏っており、発信する力が不足していたと、振り替って思います。」

「語学」コード

「語学」コードは、言語に関わらず大学で学んだ外国語について言及している14件（全体の8.0%）の回答に割り振られた。「語学」に関しては、以下のような具体的に海外で仕事を行う際に活かされているというコメントがあった。大学の短期語学プログラムなどを肯定的に評価するコメントを含めて、肯定的な回答は6件であった。

「卒業後、インドのNGOに就職し、道徳と体育（課外活動での空手）をインドの学校で教えました。これらは哲学科の学習内容（東洋思想）と課外活動、外国語すべてをもってなしたものです。その意味で大学での学習は非常に大きな意義を持ちます。」

「語学に関しては、高い水準での教育を受けられたと思う。特に休み期間に行った短期語学プログラムはすごくよかった。講師の方もプライベートの資格勉強のフォローもしてくれた。会社に入り、同じように語学の学校はあったがあまりにレベルが低くすぎて落胆した。」

「語学」での否定的な内容としては、学んだ語学が就職時にプラスにはならなかったというコメントであった。

「フランス語はビジネスで使えるほど堪能でなければ何も就職にはプラスにならない。」

「語学」に関するコメントのうちその他に分類されたものは、語学の授業が充実していなかったというコメントや語学の自らの学習についてもっと積極的であればよかったという内容で、4件であった。

「英米文学科に在籍しておりましたが、より実用的（実践的）な英語を学ぶための努力をすればよかったと感じています。」

「語学の授業がもっと充実していればよかったと思う。（TOEIC対策の授業などがあつたらよかった）」

「資格」コード

「資格」コードは、大学の課程内外を問わず、在学中に取得した資格について言及している14件（全体の6.3%）の回答に割り振られた。「資格」に関しては、以下のように在学中に取得した資格を活かし

て就職・仕事をしている、というコメントを含めて、肯定的な回答は11件であった。

「*日文の日本語教育系で学びましたが、現在日本語教育に携わっています。教職もとり、国語教育にも従事しています。大学で学んだことが今の生活を形成しています。全ての基礎です。知識だけでなく、考え方や研究の仕方も、丸々役立っています。*」

「*本学の生涯学習センターを利用して取得した秘書検定・医療事務の資格が、現在正社員として勤めるこの仕事に就くことに大きくつながりました。*」

「資格」に関することで活用していないというコメントは、進路とのつながりが全くなかったというものであった。

「*資格・就職支援プログラムなどは私の進路が独特だったこともあります、全く関係はしていません。*」

「資格」に関する意見としては、以下のように資格取得を現状以上に支援する環境を望むコメントが見受けられた。

「*学習院らしい高貴且つ朗らかな情緒は大切にしつつもより実践的なことを学べ、高い英語力（少なくとも toEIC 800）、簿記や法律系などなどの資格取得を目指せる環境を望みます。*」

「人間関係」コード

「人間関係」コードは、ゼミ、部活動、サークル活動などで培われた人間関係について言及している17件（全体の9.7%）の回答に割り振られた。全てのコメントが、大学時代の人間関係が卒業後に活かされており、以下のように就職先の会社で学習院大学の先輩や後輩がおり相談がしやすい、卒業後の生活の心の支えとなっている、このような人間関係が財産になっているといったものであった。

「*現在の会社には学習院大学のOBOGの先輩後輩も多くいる為、いつでも相談できる環境を頂くことができます。今の私にとっては、そういった人間関係を形成することができたことが一番大きなことと思っています。*」

「*在学時に学習したことが直接今の仕事に活かされているわけではありませんが、大学で学んだこと、経験したこと、大学でできた交友関係が今の私を支えていることは間違いありません。*」

「*大学で培った人間関係が何よりも財産になっていると思います。*」

「経験」コード

「経験」コードは、具体的な知識、能力、スキル等に言及はないが、経験したことそのものが卒業後に活用できているという36件のコメント（全体の20.5%）に割り振られた。以下のように、何かの活動の経験が役に立っているというコメントが見受けられた。

「*サークル活動で得た経験、技術は今の仕事（カメラマン）に活かされていると思う。*」

「*在学中の実習や海外研修、サークル活動（日本語教室）での経験が、大変役に立っています。*」

また、以下のコメントに関しては、経験全体として役立っていないとして、「経験」を活用できていないコメントとした。

「大学時代の経験は私の目標とするものに全く役に立たないどころか、無駄にストレスと年数だけを重ねてしまっただけでした。入りたいサークルや部活もなく、一人黙々と読書と学業に励みましたが、実社会で大学での経験がお金を稼ぐこととは全くつながらず、ただの無駄なモラトリアムだったと感じています。」

さらに、以下のコメントは大学の教育全般への意見として、「経験」に対する意見・提言と捉えた。

「大学で得た専門分野を活かした仕事をするのは厳しいと思います。発表やレポート提出等を積極的に行うべきだと思いました。」

その他

その他のコメントとしては、以下のような大学の設備や学習環境に関する肯定的なコメントが見受けられた。

「学習院大学は他の首都圏の総合大学に比べ生徒数が少ないにも関わらず、図書施設や学習環境が非常に整っており、学習意欲がある時期に大きなメリットを感じていました。私は経済学科でしたが法経棟の充実ぶりには当時大変満足していましたし、今後も強力な武器として更に施設を充実させて行って欲しいです。」

「ゼミに関しても少人数で、生徒1人1人の話をよく聞いてくれた。ある環境でなかったら続けられなかったという甘えもあるが、自分が好きな学問を仲間と研究できたことは貴重な時間だったと思う。」

その他のコメントに関しては、意見や提案が15件であり、大学の体制等に関するものが見受けられた。

「一言でいうと、学習院は存在感が薄い。体質の古さがその原因の一つだと思う。これと思うセールスポイントを早く打ち立てて、世間に大々的にアピールしてほしい。学習院は元気がない。変わるべき時だと思う。」

「大学を単なる職業訓練の場としてではなく、様々な文化や考え方に触れることで、人生を豊かにする場にしていただきたいと思います。」

「内向的な大学の校風がいい面もありますが、留学や他大学との交流といった面ではとても風通しがいいとはあまり思えません。キャリアに関することをもっと、地方から出て来る学生に対してのケアを厚くした方がいいと思います。国際交流や外国人のサイトをもっともっと受け入れるなど積極的に学習院という名前をうってほしいとおもっています。」

4. まとめ

以上、各コードについて具体的な回答内容を見ながら、学習院大学での学びの成果がどのように活用されているかを見てきた。概要としては以下のように集約できるだろう。

- 大学時代に専門として学んだ知識は、専門に関する仕事に就いた卒業生は活用できていると感じている。そうではない場合はあまり活用できているとは感じていないが、他者（ビジネス場面の顧客等）とのコミュニケーションを円滑にするような「教養」として活用できているというコメントも見受けられた。

- ・人やものごとへの理解力や、学んだ内容を整理したりするための思考力は、大学で学ぶ中で培われ、卒業後においても活用できている。
- ・在学中に多くの他者と関わる経験は、対人関係スキルの習得だけではなく、多様な価値観を知ることにもつながり、他者を受け入れる姿勢が身についたというコメントも見受けられた。
- ・大学在学中に築いた人間関係について、人間関係そのものが卒業後の人生の財産となり、卒業後の生活を豊かにできているというコメントも見受けられた。
- ・語学は、短期研修プログラムや授業などをうまく利用できたというコメントもある一方、卒業後に活用できるレベルにはならなかった、もっと学べるようにしてほしいといったコメントも見受けられた。
- ・資格に関しては、取得した資格に関係した仕事をしている、就職の際に活用できたといったコメントも見受けられた。

■自由記述回答内容の整理手順

卒業生が回答したコメントの整理を行うにあたって、KH Coder (version : 3.alpha.13L, 2018) の機能 (形態素解析とコーディング機能) を用いた。KH Coder は「テキスト型 (文章型) データを統計的に分析するためのフリーソフトウェア」であり、抽出する特定の語を設定できることや、回答の内容をコーディングする際に網羅できることと、フリーソフトウェアであり費用の面で有用であることを理由として利用した。しかし、KH Coder は文中に含まれる「語」についての解析ソフトウェアであるため、その語が肯定的あるいは否定的に用いられているかなどの意味は判別できない。このことから、KH Coder の機能を用いつつ、分析者による確認と再コーディング、意味の判別を行うことで、整理の目的を達成できるようにした。具体的な手順は以下の通りである。

【コーディングの手順】

- ① KH Coder を用いて、形態素解析を行い、単語を網羅的に抽出する。
- ② 単語と内容を検討しながらコーディング・ルールを検討する。
- ③ KH Coder によるコーディングを実施する。
- ④ KH Coder によるコーディングの結果を、分析者が確認し、必要な場合に再コーディングを行う。同時に、そのコードについて、ポジティブ (活用できている)・ネガティブ (活用できていない)・その他 (〇〇を学べるようにしたほうがよいという大学への提案など) に意味の判別を行う。(最終コーディングの決定)
- ⑤ コーディングの差異を見ながら、コーディング・ルールを再検討する。
- ⑥ 再検討したコーディング・ルールでコーディングを実施する。
- ⑦ コーディング・ルールと最終的なコーディングの差異率の検討。

④において、KH Coder による網羅的なコーディング結果から、分析者による再コーディングを行ったのは、単語が含まれていても目的と合致しない使用の仕方である回答や、関連する単語を含まないがいずれかのコーディングと同様の内容に言及していると判断された回答があったためである。結果として、KH Coder によるコーディングから変更のなかったものの割合をコード採用率として計算したところ、全体の採用率は 89.6%であった (付録表 2)。再コーディングを行った後、その他を含むコードが何も振られなかった回答は 7 件であった。コードの種類別にコード採用率を見ると、最低が「経験」の 80.7%であり、最高は「語学」の 98.3%であった。

また、この再コーディングと同時に、ポジティブな内容、ネガティブな内容、あるいはその他の内容、のいずれに該当するか、分析者の判断により分類を行った。これは、質問項目は「どのような形で活かされていますか」であるが、実際の回答には、「〇〇はあまり活かされていない」といったものや、「〇〇を学べるカリキュラムにしてほしい」といったものなどが含まれており、これらの判別が必要であったためである。

また、このコーディングでは、一つの回答に複数のコードが振られる (一つの回答が複数のコードに該当する単語を同時に含む) 場合が多数存在するが、その意味の判断はコードごとに行った。

なお、⑤～⑦は、次年度以降の自由記述回答の整理に用いることを意図して、コーディング・ルールの妥当性を高めることを目的とした振り返りの作業である。

今回は、KH Coder による解析やコーディング後の意味内容の判断を行ったのは1名の分析者によるものである。本報告書に含まれる回答内容とコーディングや意味については、複数の人間による確認と合意を経ているが、すべての回答やコーディングについて複数人の確認を行うことには使用できるリソースの関係上限界がある。したがって、本報告の結果の信頼性や妥当性についても限界があるが、次年度以降も課題として、整理の方法の検討を進めていく予定である。

付録表 1 頻出単語上位 150 語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	120	部	14	政治	9
大学	115	文章	14	正直	9
仕事	72	学び	13	生徒	9
学ぶ	65	教育	13	積極	9
経験	58	作成	13	日本	9
今	55	受ける	13	能力	9
活動	53	内容	13	付ける	9
知識	51	論理	13	簿記	9
自分	49	学問	12	コミュニケーション	8
現在	45	教員	12	課外	8
活かす	42	興味	12	業務	8
学習	41	資格	12	経済	8
役立つ	40	時間	12	交流	8
感じる	38	実感	12	高い	8
考える	38	人間	12	仕方	8
人	36	直接	12	実験	8
学生	34	日本語	12	少ない	8
授業	34	必要	12	知る	8
学科	32	友人	12	入学	8
時代	32	機会	11	目標	8
卒業	32	強い	11	理解	8
生活	30	取り組む	11	意識	7
力	30	取得	11	意味	7
ゼミ	28	人間関係	11	一番	7
社会	28	全く	11	演習	7
多い	28	文学	11	課題	7
勉強	26	問題	11	学べる	7
身	25	レポート	10	教養	7
関係	23	科目	10	経営	7
就職	23	活きる	10	使う	7
得る	23	環境	10	資料	7
教授	22	基礎	10	自ら	7
役に立つ	22	教える	10	自由	7
会社	19	言う	10	就く	7
学習院大学	19	出る	10	出来る	7
先生	19	書く	10	情報	7
良い	19	卒論	10	全て	7
様々	18	多く	10	伝える	7
サークル	17	大切	10	入る	7
研究	17	働く	10	文科	7
専門	17	物事	10	無い	7
在学	16	文化	10	歴史	7
技能	15	論文	10	話	7
特に	15	意見	9	アルバイト	6
分野	15	英語	9	キャリア	6
考え方	14	感謝	9	英	6
講義	14	見る	9	会話	6
人生	14	語学	9	海外	6
専攻	14	持つ	9	楽しい	6
非常	14	自身	9	関わり	6

付録表2 KH Coder によるコード採用率

コード名	知識	理解・ 思考力	態度・ 姿勢	対人関係 スキル	語学	資格	人間関係	経験	全体
変更のなかった回答	154	154	152	158	173	166	162	142	1261
全体の回答数	176								1408(※)
コード採用率	87.5%	87.5%	86.4%	89.8%	98.3%	94.3%	92.0%	80.7%	89.6%

※コード（その他を除く）の種類8つと回答数176件をかけた1408を全体の一致率計算に用いた。